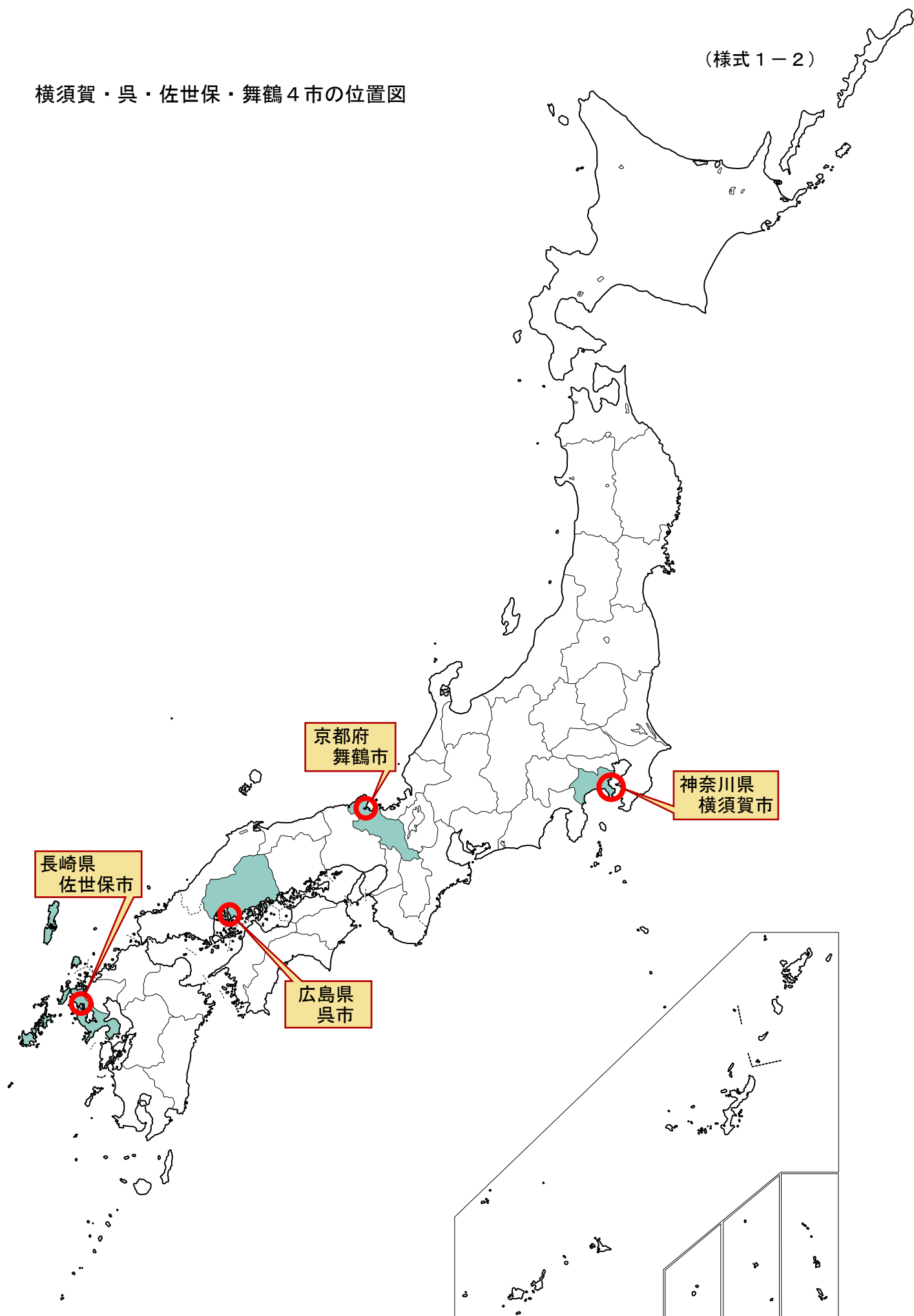
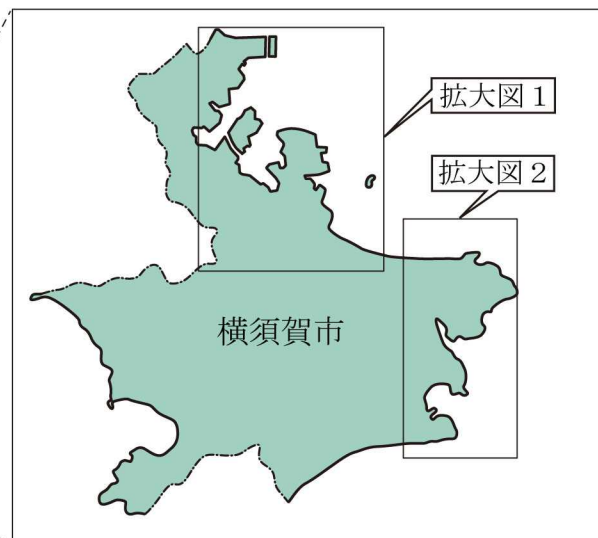
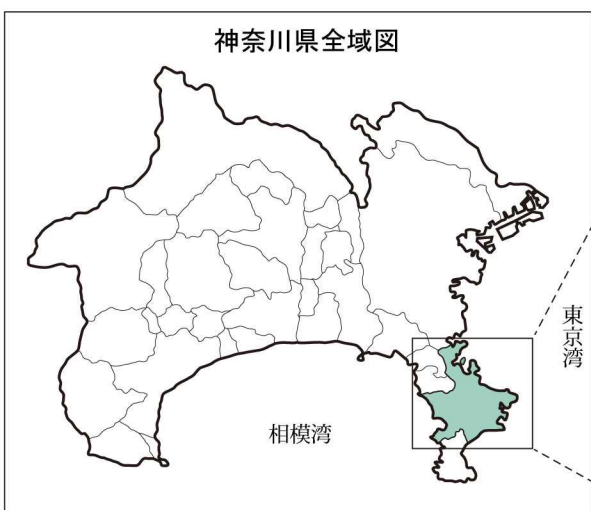


① 申請者	神奈川県 横須賀市 ◎ 広島県 呉市 長崎県 佐世保市 京都府 舞鶴市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p style="text-align: center;">軍港都市 横須賀・呉・佐世保・舞鶴</p> <p style="text-align: center;">～日本近代化の躍動を体感できるまち～</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>横須賀港</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>呉港</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>佐世保港</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>舞鶴港</p> </div> </div> <p>明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	呉市企画部企画課調整グループ 多田 博		
電 話	0823(25)3225	FAX	0823(21)8849
E-mail	kikaku@city.kure.lg.jp		
住 所	〒737-8501 広島県呉市中央4丁目1番6号		

横須賀・呉・佐世保・舞鶴 4 市の位置図

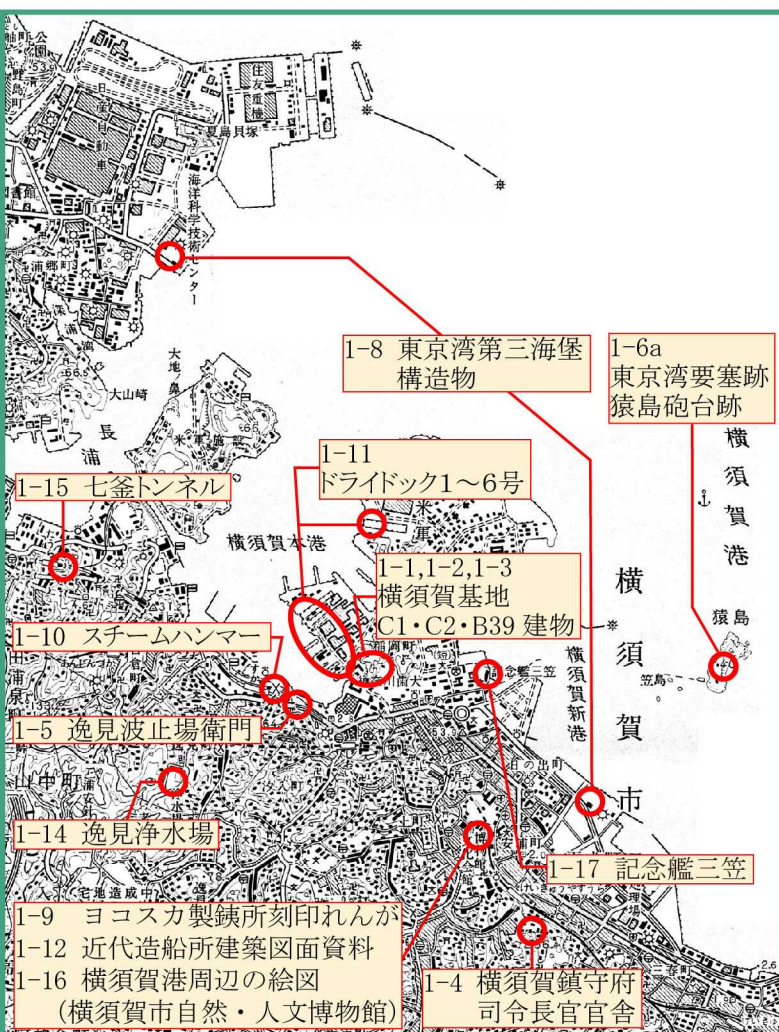


構成文化財の位置図 (横須賀市)

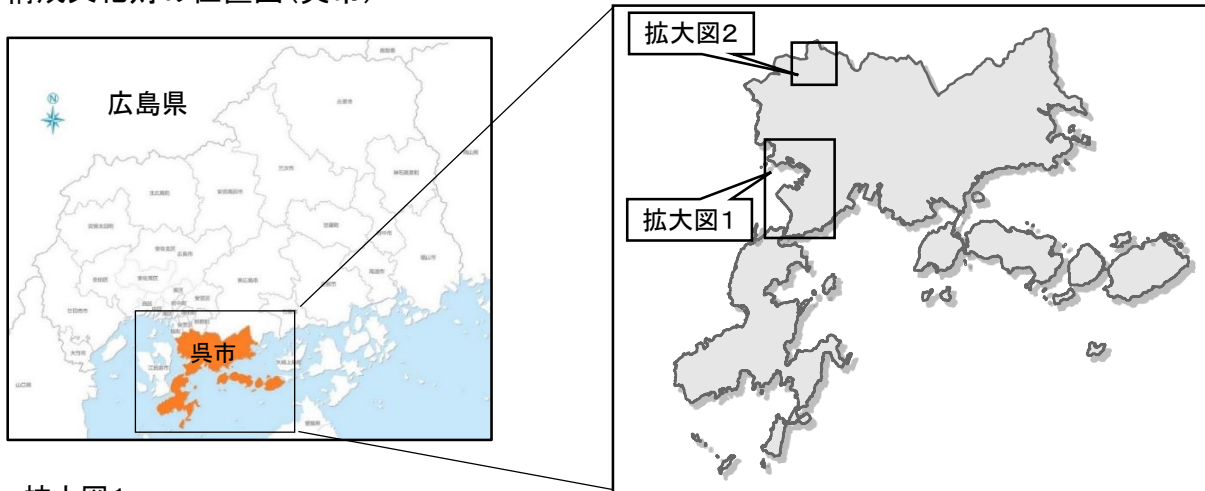


拡大図 1

拡大図 2



構成文化財の位置図(呉市)



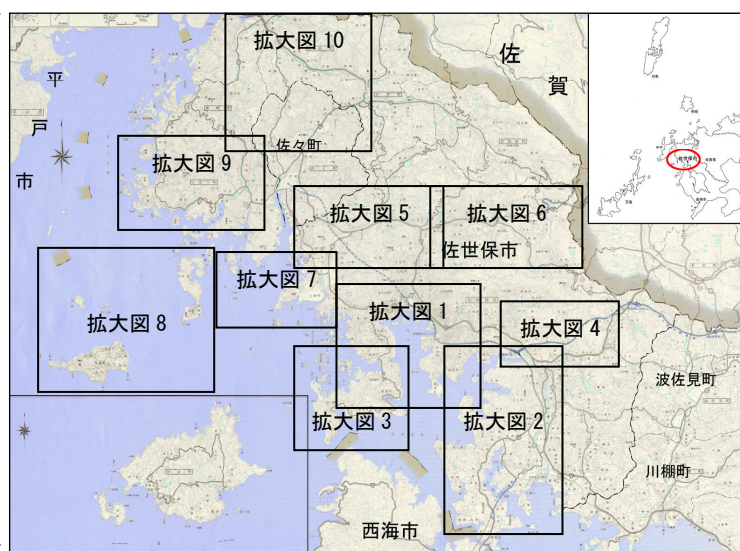
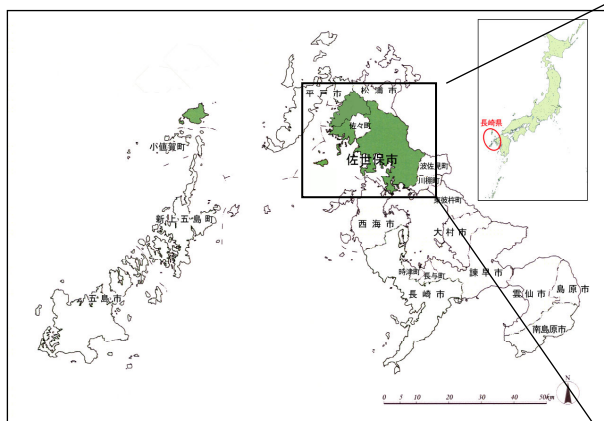
拡大図1



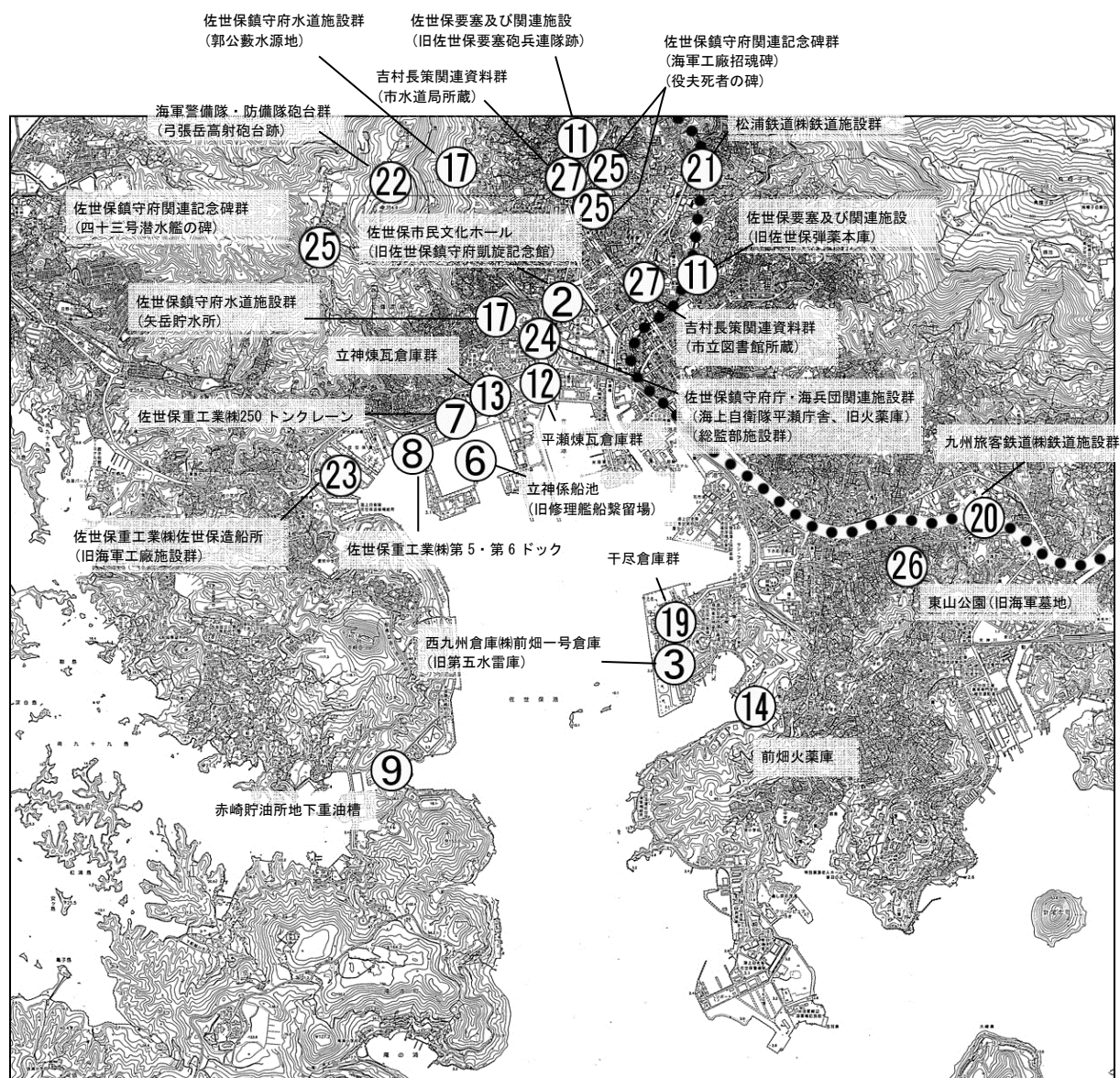
拡大図2

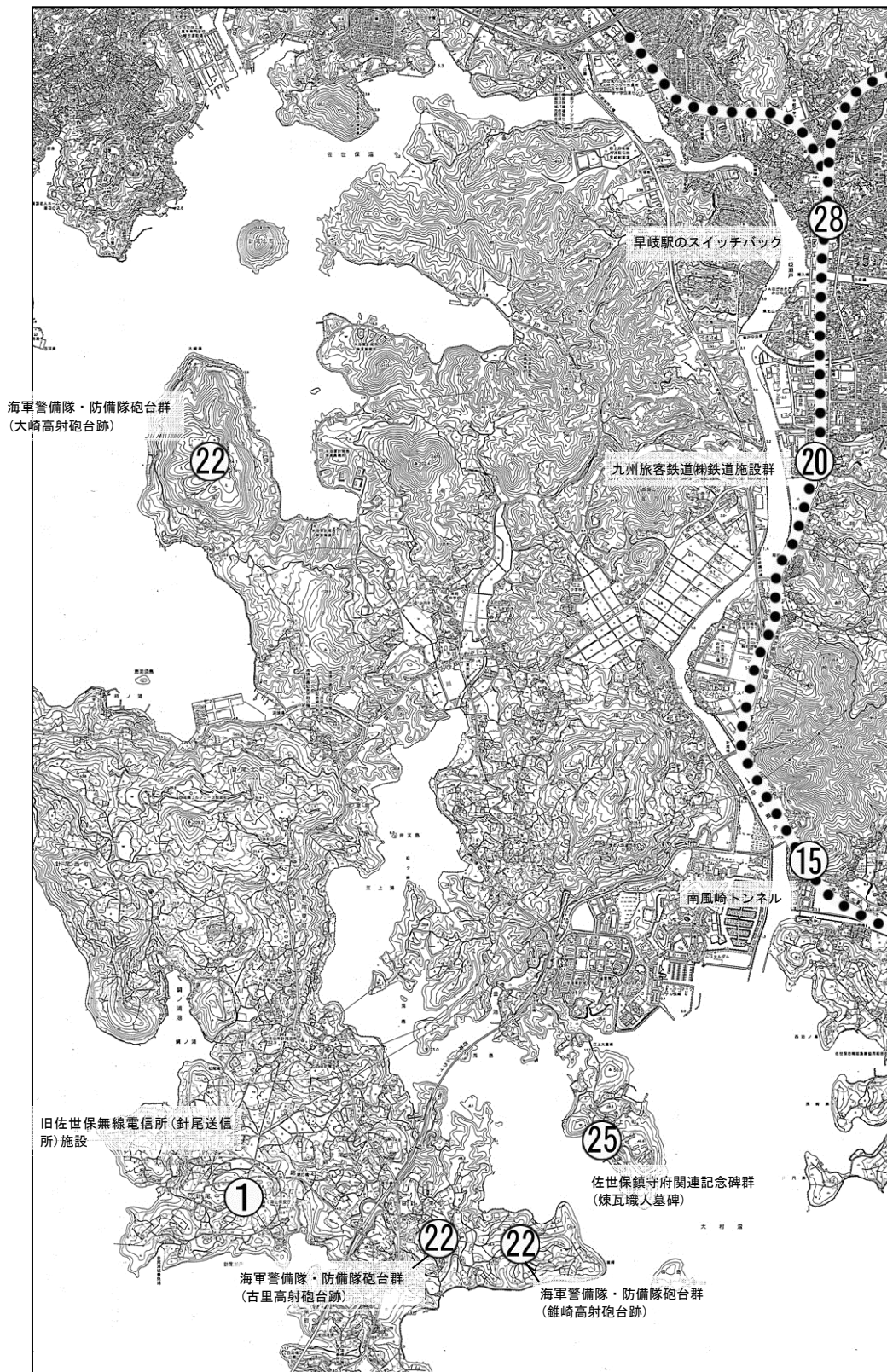


構成文化財の位置図（佐世保市）

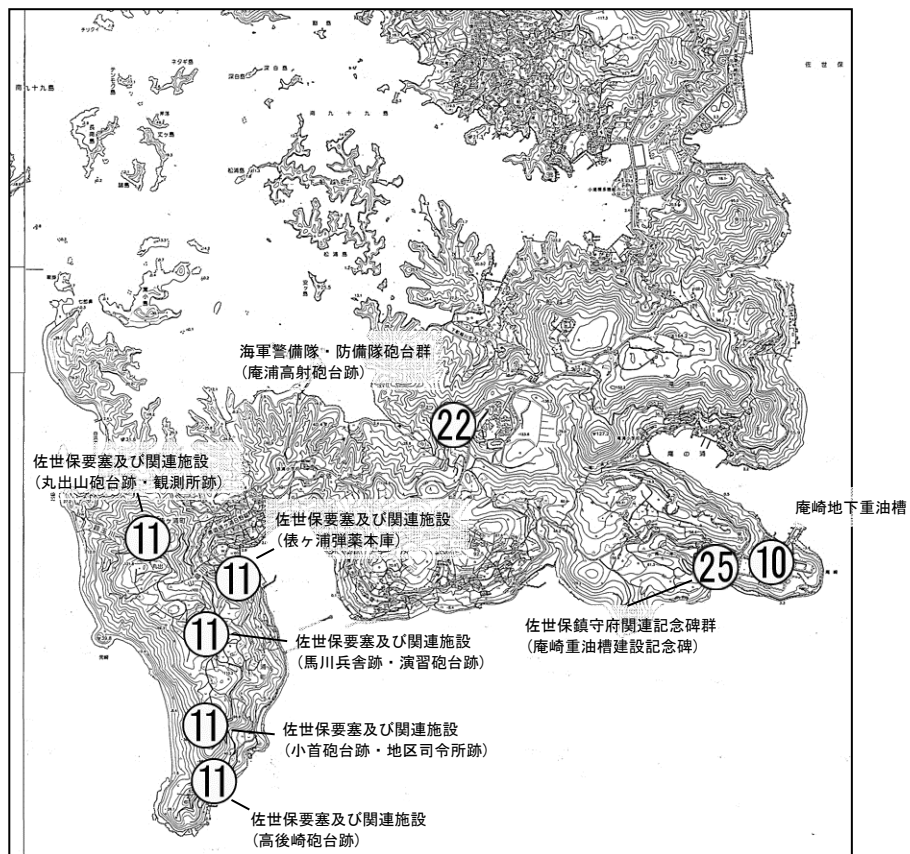


拡大図 1

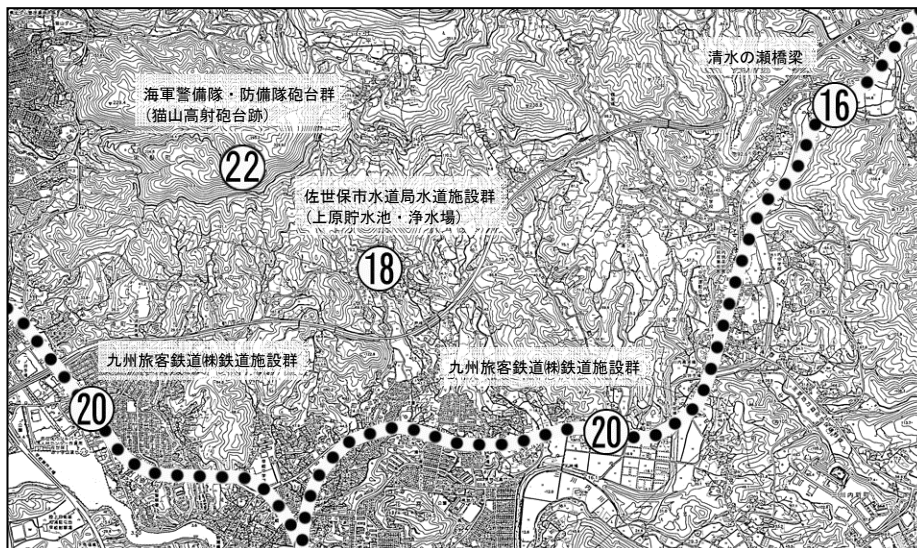




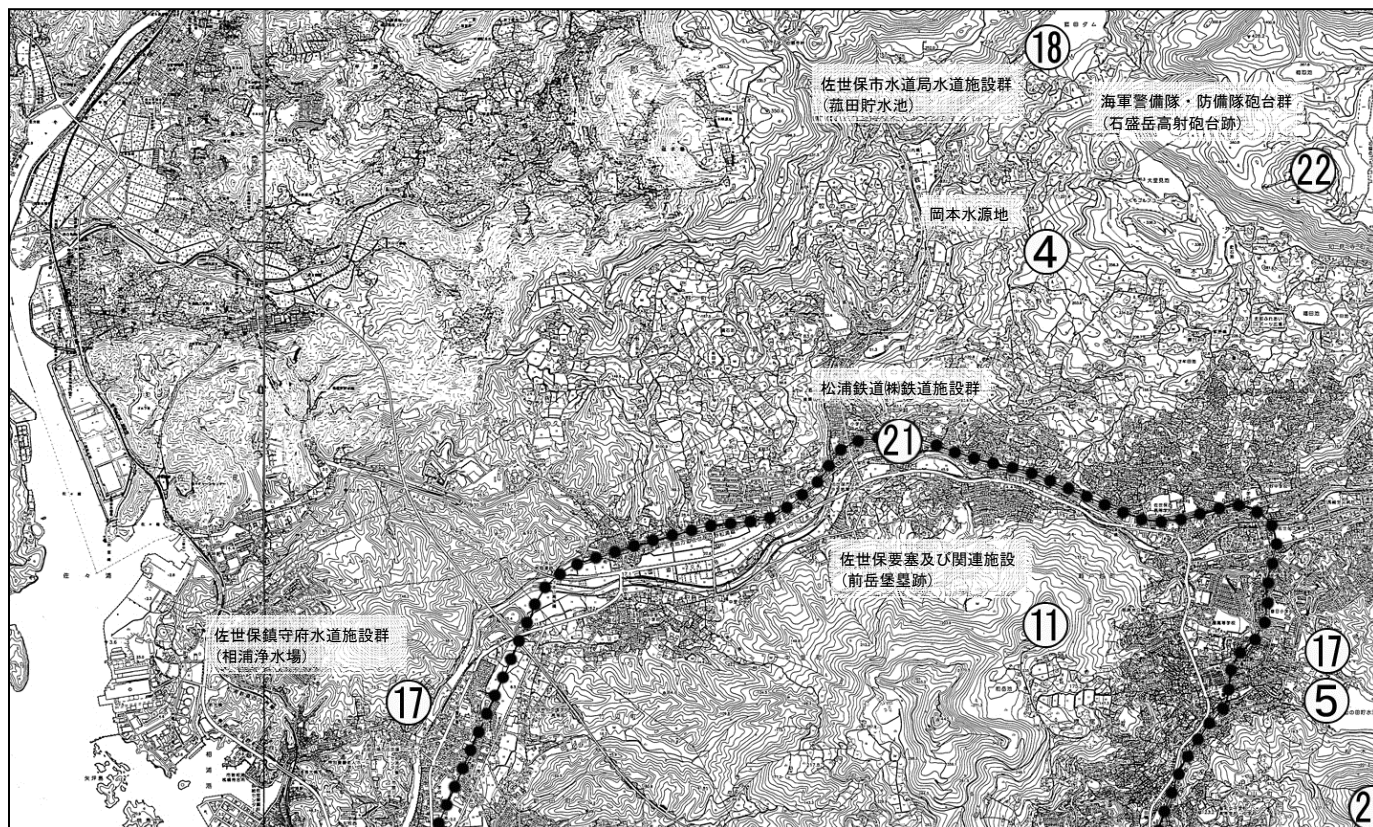
拡大図 3



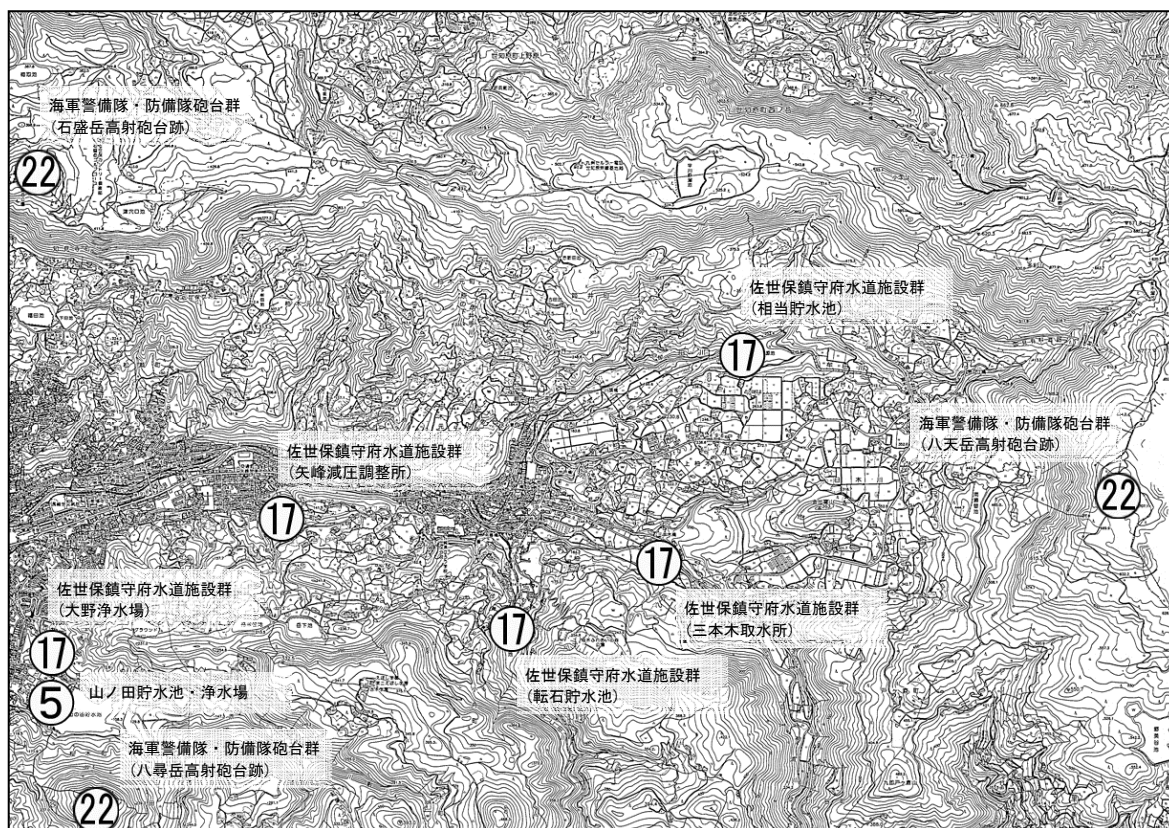
拡大図 4



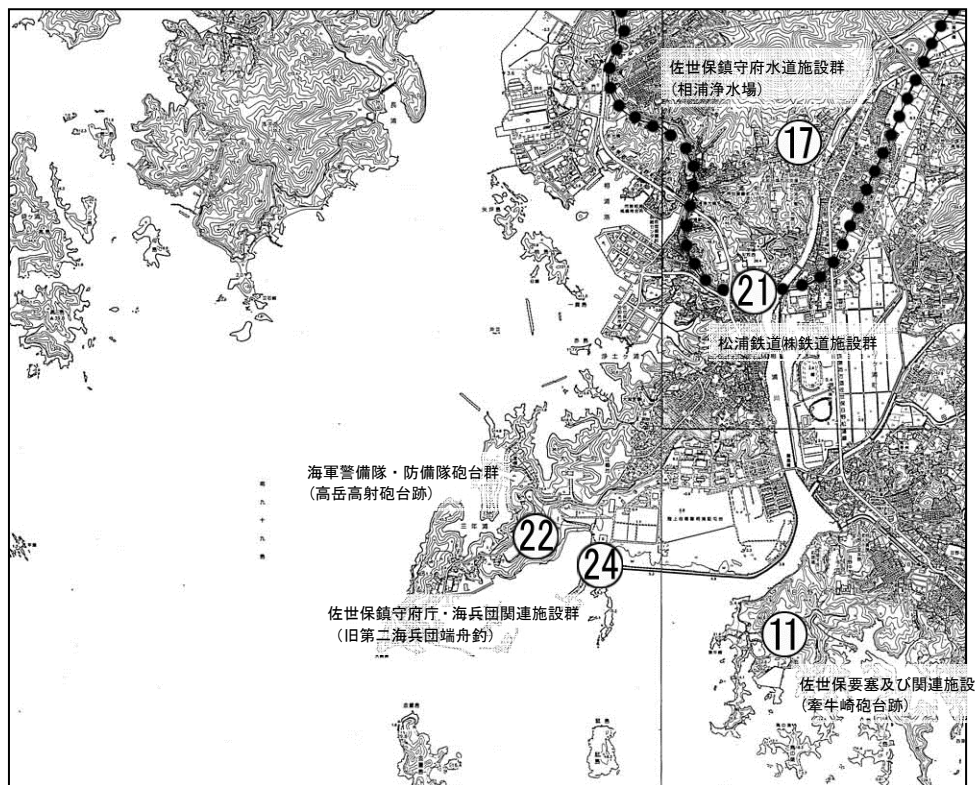
拡大図 5



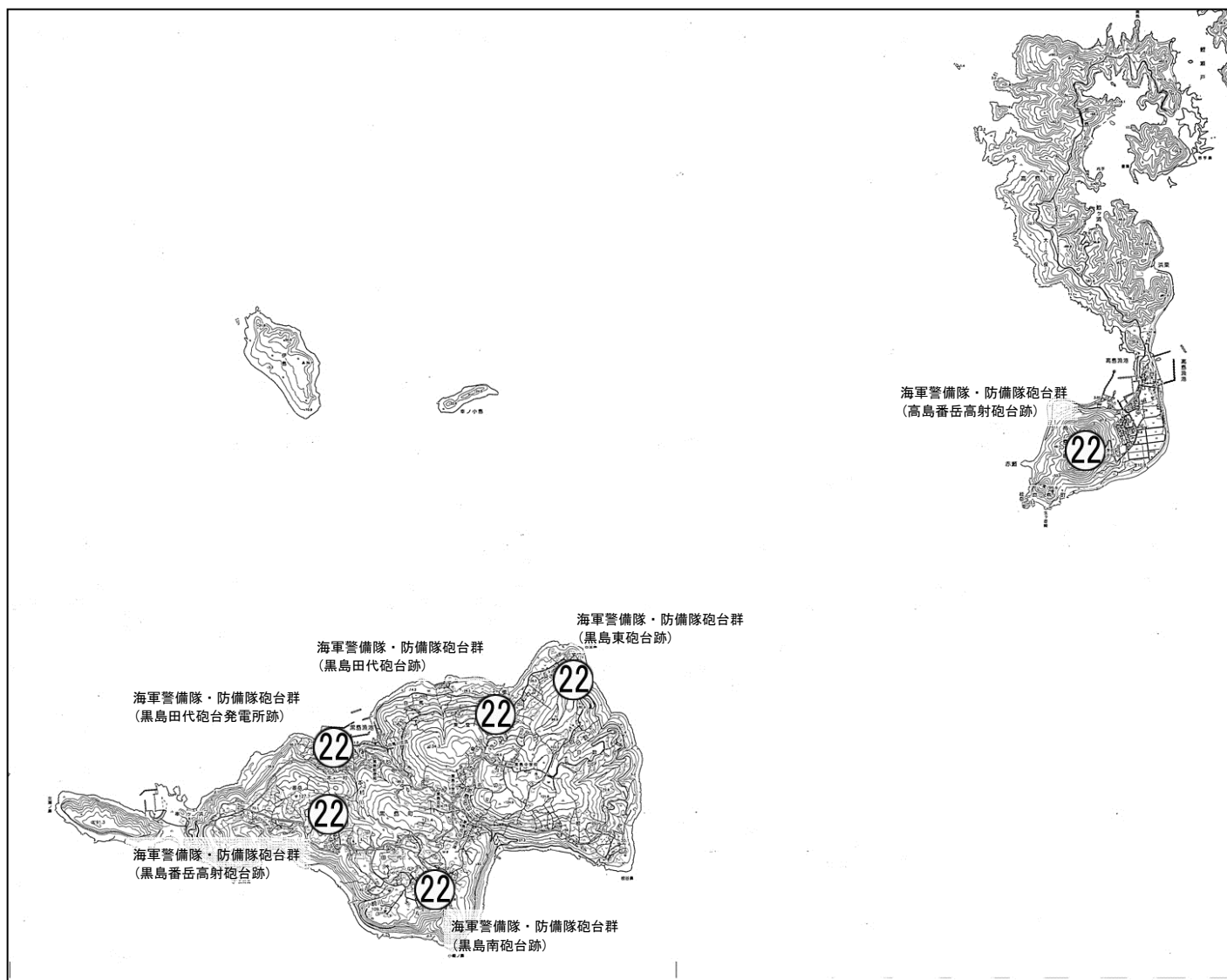
拡大図 6



拡大図 7



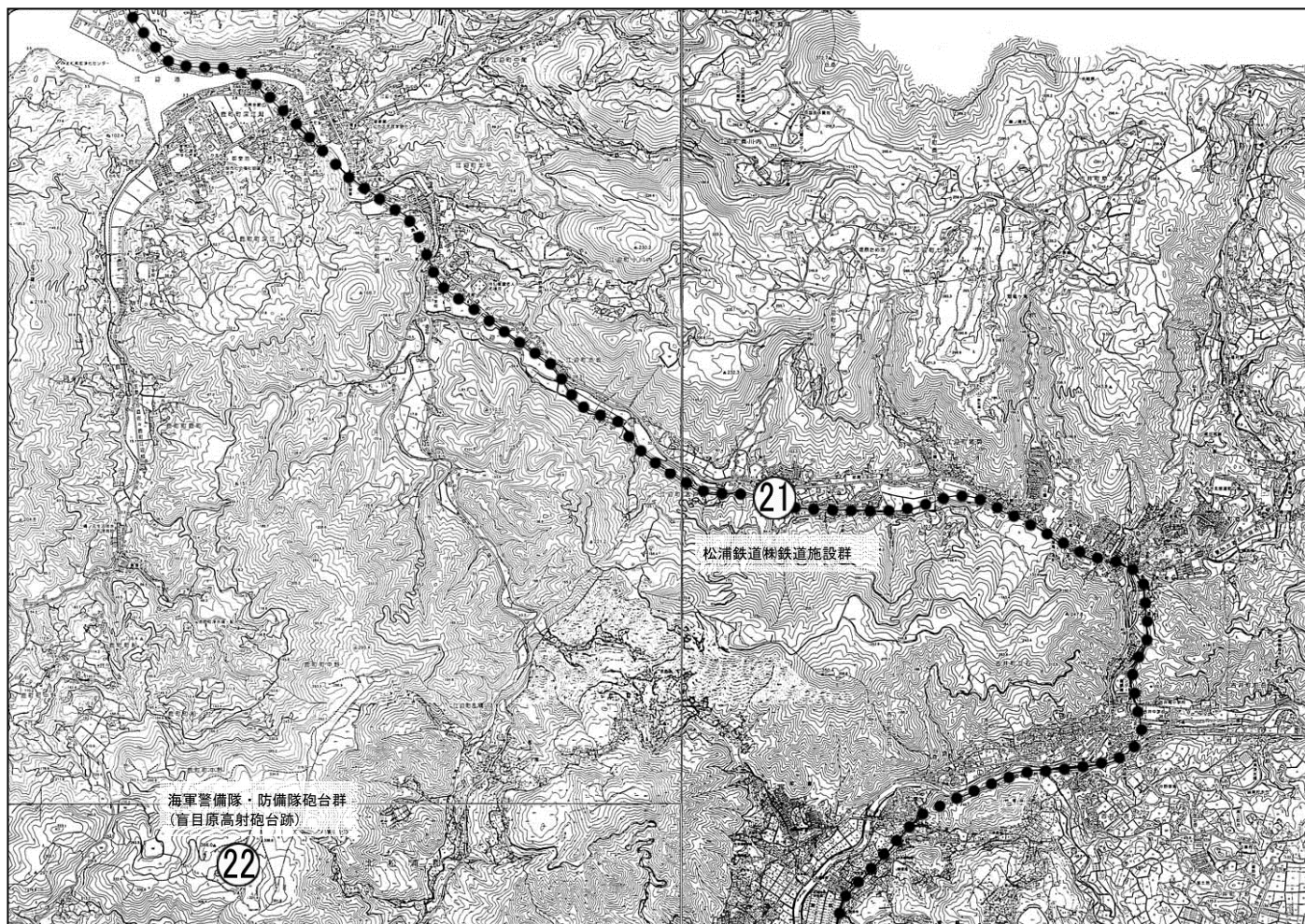
拡大図 8



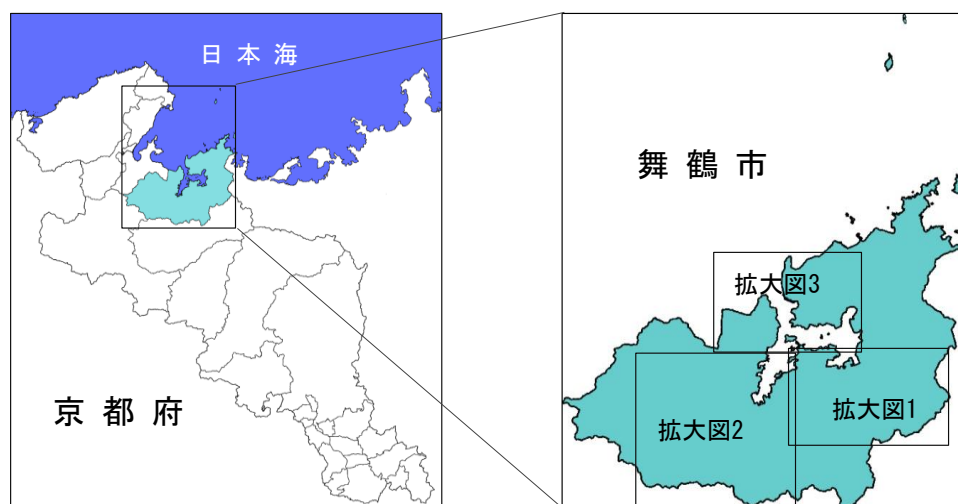
拡大図 9



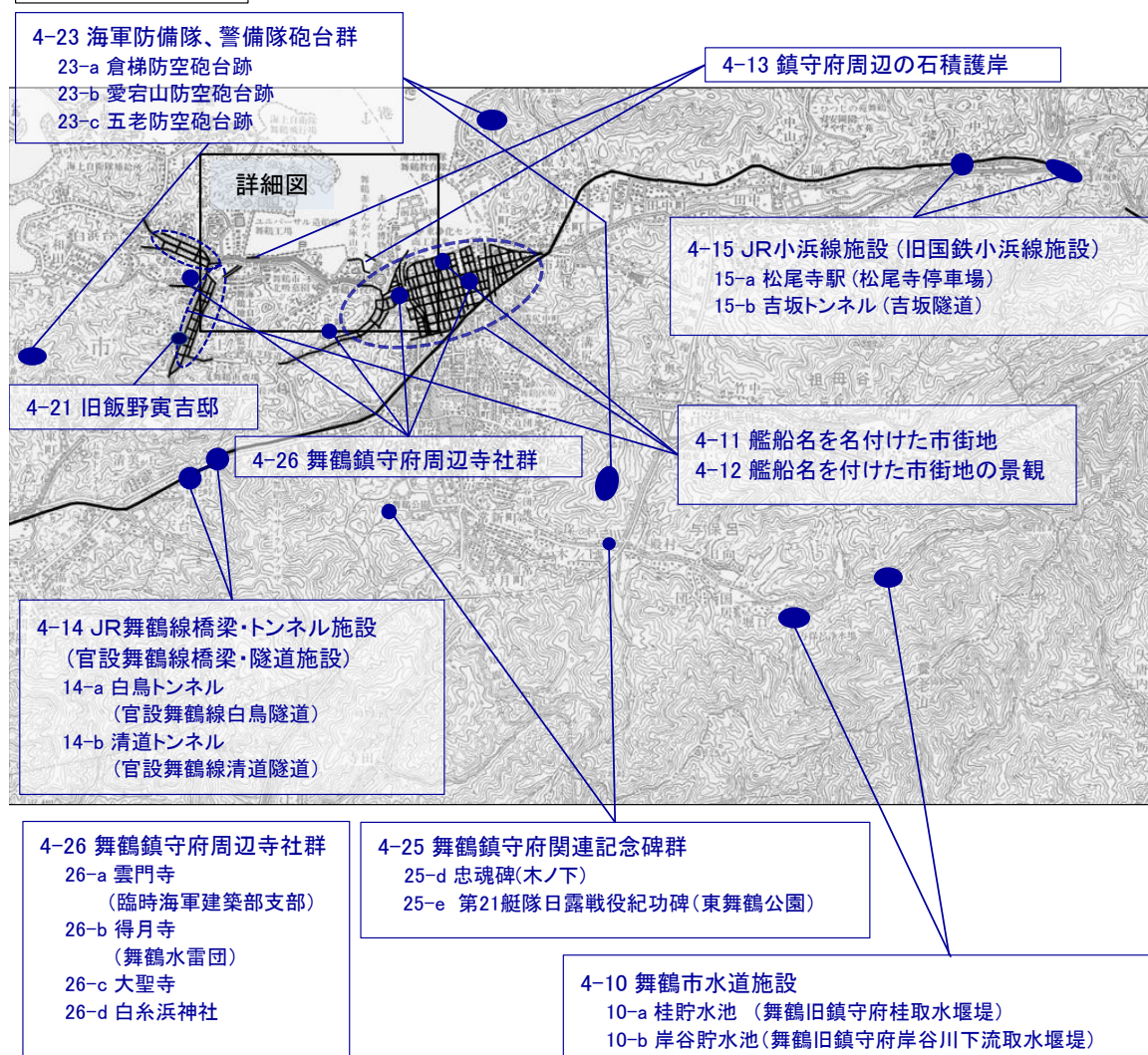
拡大図 10



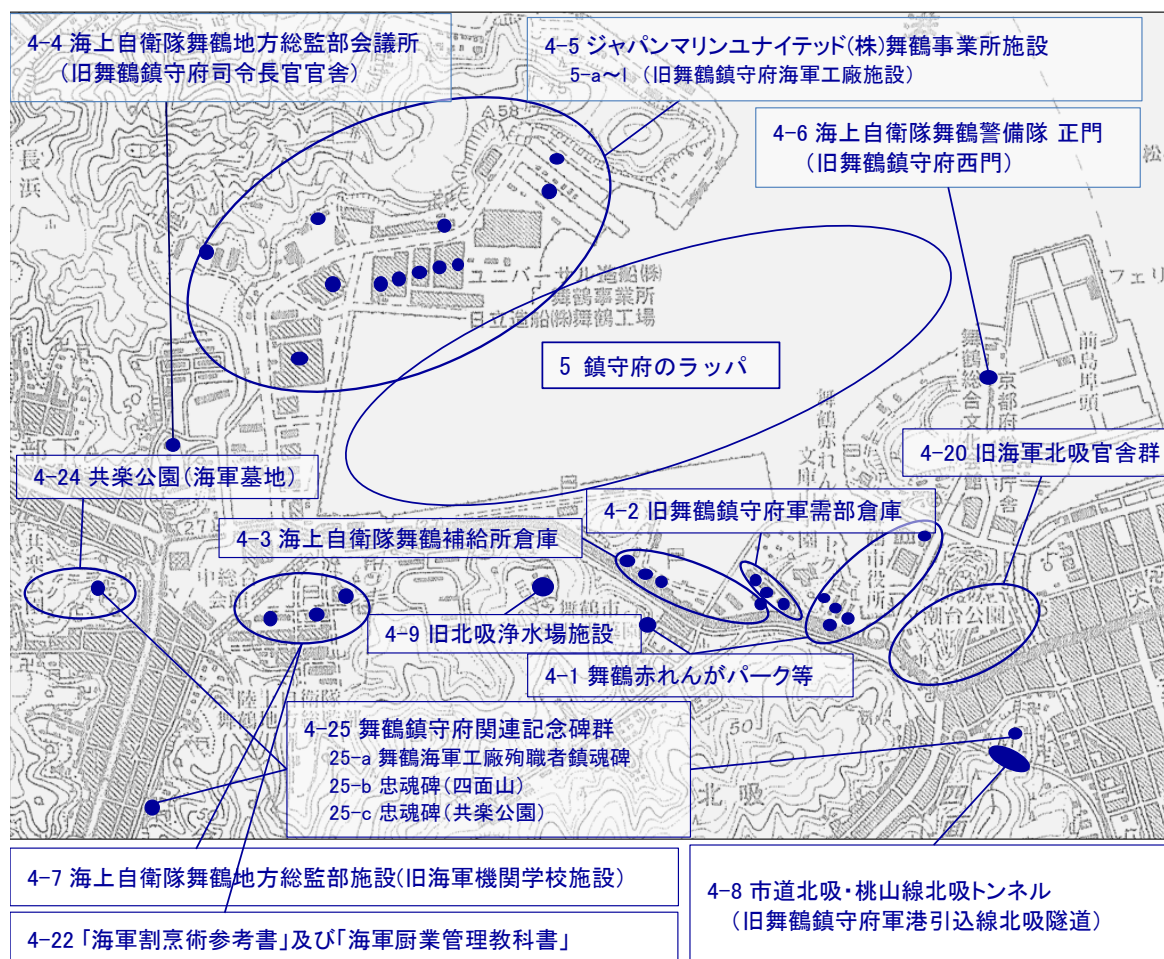
構成文化財の位置図 (舞鶴市)



拡大図1(東部)



詳細図(旧舞鶴鎮守府周辺)

4-1 舞鶴赤れんがパーク等
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設)

- 1-a 舞鶴赤れんがパーク1号棟 舞鶴市立赤れんが博物館
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設 魚形水雷庫)
- 1-b 舞鶴赤れんがパーク2号棟 舞鶴市政記念艦
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設 予備艦兵器庫)
- 1-c 舞鶴赤れんがパーク3号棟 まいづる智恵蔵
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設 弾薬庫並小銃庫)
- 1-d 舞鶴赤れんがパーク4号棟 赤れんが工房
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設 雑器庫並預兵器庫)
- 1-e 舞鶴赤れんがパーク5号棟 赤れんがイベントホール
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設 軍需部第三水雷庫)
- 1-f 舞鶴旧鎮守府軍需部揮発油庫

4-2 旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設 需品庫3棟)

- 2-a 第二水雷庫(旧需品庫)
- 2-b 第一水雷庫(旧需品庫)

4-3 海上自衛隊舞鶴補給所倉庫

- 3-a No.2倉庫(旧舞鶴鎮守府衣糧庫被服庫)
- 3-b No.3倉庫(旧舞鶴鎮守府衣糧庫被服庫)
- 3-c No.4倉庫(旧舞鶴鎮守府軍需部第三被服庫)
- 3-d No.17倉庫(旧舞鶴鎮守府軍需部第一需品庫)

4-5 ジャパン マリンユナイテッド(株)舞鶴事業所施設
(旧舞鶴鎮守府海軍工廠施設)

- 5-a 舞鶴館 (海軍工廠本館)
- 5-b 第二倉庫 (海軍工廠造兵機械場)
- 5-c 機装工場 (海軍工廠製造工場第二鑄造場)
- 5-d 複写室 (海軍工廠第五材料倉庫)
- 5-e 第三陸機工場(海軍工廠第一製缶場)
- 5-f 第三陸機工場(海軍工廠第二製缶場)
- 5-g 第4修理工場(海軍工廠現図場)
- 5-h 第二機械工場(海軍工廠外業工場)
- 5-i 第一機械工場(海軍工廠機械工場及び組立工場)
- 5-j 第2電気工場(海軍工廠発電場)
- 5-k 2号ドック (海軍工廠第一船渠)
- 5-l 3号ドック (海軍工廠第二船渠)

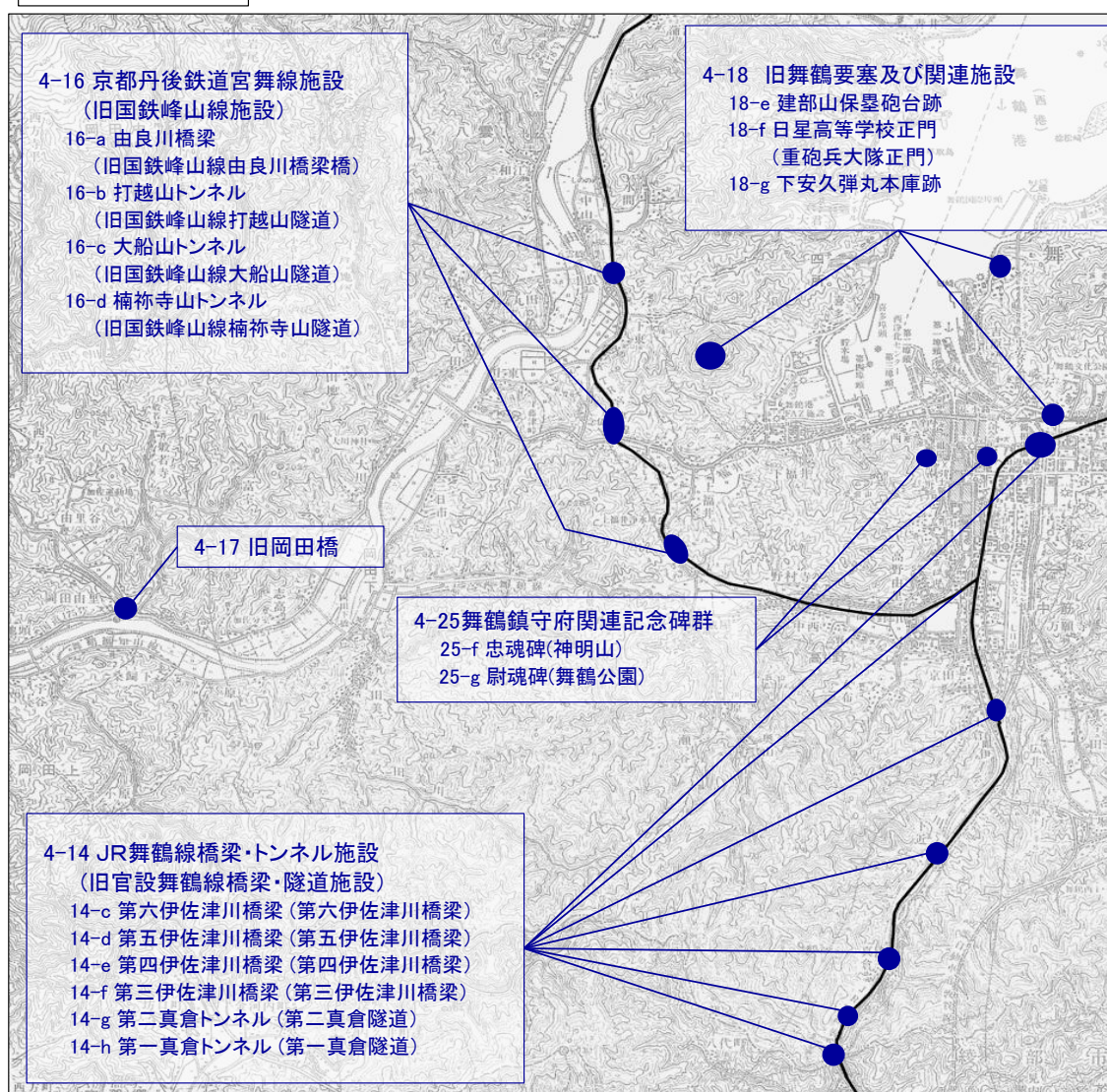
4-7 海上自衛隊舞鶴地方總監部施設
(旧海軍機関学校施設)

- 7-a 大講堂・海軍記念館 (旧大講堂)
- 7-b 第一庁舎 (旧庁舎)
- 7-c 第四術科学校庁舎 (旧生徒館)

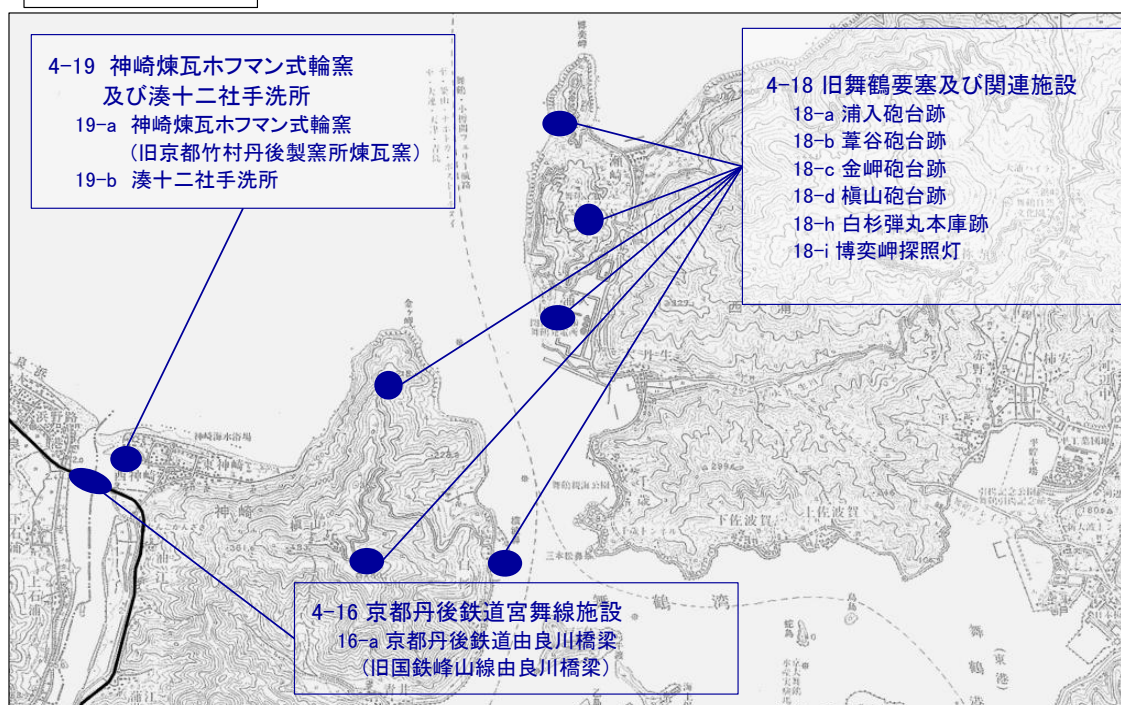
4-9 旧北吸浄水場施設 (舞鶴旧鎮守府水道施設)

- 9-a 旧北吸浄水場第一配水池
- 9-b 旧北吸浄水場第二配水池

拡大図2(西部)



拡大図3(北部)



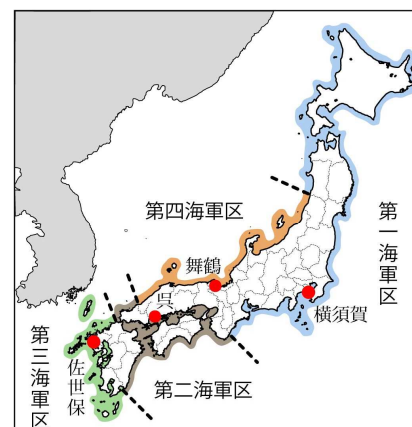
ストーリー

1 四市の地勢と軍港の設置

富国強兵、これは明治新政府が近代国家を建設するために掲げたスローガンの一つで、その強兵の一翼を担ったのが海軍です。明治政府は西欧列強と対等に渡り合うために、艦艇の配備を進めるとともに、明治 17 年（1884 年）、横須賀に鎮守府を置いた後、同 22 年に呉と佐世保、同 34 年に舞鶴で鎮守府を開庁し、島国日本の周辺海域を分割して管轄する海の防衛体制を確立しました。

この鎮守府とは軍港に置かれた海軍の本拠地であり、各海軍区を防備し、海軍工廠（艦艇の建造・修理、兵器の製造）や海軍病院、軍港水道等、多くの施設の運営・監督を行いました。また、艦艇部隊の統率には鎮守府司令長官があたりました。

四つの軍港は、急峻な山に囲まれ、外敵の侵入を拒む湾口、艦艇の航行・停泊が自在にできる湾内、水深の深い穏やかな入江など、厳しい地勢条件を満たして選定されました。軍港の建設から 100 年以上が経過し、艦艇こそ現代のものに変わりましたが、港のドックや埠頭、林立するクレーン、その界隈に建ち並ぶれんが倉庫、港に集まる鉄道・水道・通信施設、港から広がるまち並み、港を守る丘の上の要塞跡など、軍港を中心とする特有の景観は今ではすっかりそれぞれのまちの顔になっています。



海軍区と鎮守府の位置

2 日本の近代技術を結集し、その技術を育んだ軍港

海軍には常に最先端の工業技術や設備が投入されましたが、それを吸収し広く伝え、次の世代へと受け継ぐ力も必要でした。こうした技術力を推進する姿勢は、横須賀海軍工廠の前身となる横須賀製鉄所にそのルーツが見られます。フランスの技術指導により西欧から最新の造船機器を導入し、鉄製部品から建築用れんがに至るまで必要なものは全て同製鉄所で生産する体制を短期間に整えました。それとともに、技術教育学校「饗舎」を開校し、日本人の技術力の向上を図りました。

スチームハンマー0.5t 片持型
横須賀製鉄所設置 1865 年オランダ製

この技術力の向上を現在に伝えるものに横須賀製鉄所・同造船所のドックがあります。1 号ドック（日本最古の石造ドック）はフランス人による建設ですが、3 号（現 2 号）ドックは饗舎で学んだ技術者が日本人として初めて建設しました。横須賀で培われた技術は呉へ、呉から佐世保・舞鶴へ、さらには民間企業へと移転を繰り返す中で飛躍的な発展を遂げ、呉における職工教習所、技手養成所などの人材育成の充実にもつながっていきます。海軍から生まれた近代造船技術は、横須賀での軍艦清輝（897 t）建造に始まり、わずか 60 年余りの間に呉における世界最大の戦艦大和（65,000 t）の建造に至り、その集大成を迎えます。

また、今でこそ鉄筋コンクリート造は一般的な建築工法ですが、明治後期にはれんが造に代わる最新の技術として迎えられました。建築物としては佐世保海軍工廠貯所・汽罐室が始まりですが、明治 41 年に完成した横須賀の走水水源地浄水池が、現存最古級の建築としてその初期の技術を伝えます。さらに、大正 11 年に完成した佐世保の針尾送信所（高さ 136m の塔 3 基）は、他に類を見ない日本最大の通信塔として、その技術の到達点と言えます。

針尾送信所
(旧佐世保無線電信所施設) 1922 年

3 軍港都市の形成とその特徴

四市はもともと半農半漁の静かな寒村でした。ここに国の関与のもと、最新の技術と巨額の予算が短期間に集中的に投入され、急速かつ計画的に軍港都市づくりが進められました。この点に軍港都市の形成上の大きな特徴と独自性があります。

中でも、四市の水道が軍港水道として発達し、その後市民に供給された歴史が特筆されます。横須賀では走水^{はしりみず}と半原^{はんばら}の2系統の水道があり、後者は神奈川県北部の相模川支流から高低差 70m を利用して 53km を自然流下させる無類の通水システムで、10 年の歳月をかけ大正 10 年に完成しました。また、呉では、鎮守府開庁の翌年には全国で3番目の早さで近代的な水道施設を開設し、大正 7 年には長さ 97m、高さ 25m の当時東洋一の規模を誇った本庄水源地堰堤水道施設^{ほんじょうすいげんちえんてい}が完成しました。重厚で壮大な規模の水道施設の建設は、艦艇への給水や工業用水として、どれほど水は重要であったかを証明しており、軍港への水の安定供給が実現したことで市民生活へも潤いを与えることになりました。

また、陸上交通の整備にも特徴があります。四市は海路の利便性とは裏腹に陸路には難があったため、鎮守府開庁に伴い幾多のトンネルや鉄橋を建設して鉄道を敷設^{ふせつ}しました。これにより人と物資の輸送を促してまちの発展を加速させました。全国からの急激な人口流入も四市共通の現象で、鎮守府に通じる幹線道路を中心に、機能的で発展性のある碁盤目状^{ごばんめ}の市街地を形成しました。その結果、佐世保では鎮守府開庁前 3 千 8 百人程の人口が、約 20 年で 13 倍の 5 万人を超えるほどの人口増加に対応できました。

このように水道・鉄道・市街地等の都市基盤の整備は、市民の生活を支え、軍港都市をつくっていききました。明治 12 年から同 38 年まで刊行された横須賀明細式覧図^{めいさいいちらんず}などの絵図は、軍港の発展と共にまちが広がっていく様子をいきいきと描いています。また、舞鶴では、碁盤目状の市街地の街路に、当時活躍した八島^{やしま}、敷島^{しきしま}、三笠^{みかさ}など大小 33 の艦艇名を名付けました。明治 35 年の命名以来、軍港都市としての自信と誇りが伺えます。

軍港がまちにもたらしたものは、先端技術や都市基盤の整備ばかりでなく海軍由来の食文化もあります。明治 41 年に舞鶴海兵団が発行した『海軍割烹術参考書^{かいぐんかつぼうじゆつさんこうしょ}』には 100 種類以上もの洋食の詳細なレシピが掲載されています。カレーや肉じゃがなどは、海軍が脚氣予防として採用した洋食を日本人の口に馴染^{なじ}むように改良したものでした。

近代日本の海防の要として共に歩んだ横須賀・呉・佐世保・舞鶴の四市。西欧の先端技術を導入し、その技術を伝え、さらに新たな技術を創り出し、技術力を高め合うことで日本の近代化を推し進めました。軍港建設により一躍、近代都市へと変貌を遂げた証となる石・れんが・鉄・コンクリートの数多くの軍港関連遺産の中には、現在でも稼働する施設が多くあり、当時の技術水準の高さを伺い知ることができます。

軍港そして鎮守府が置かれたまちの歴史を共有し、その歴史を体感できるのは日本の中でこの 4 か所だけです。どこか懐かし^{なつ}くも逞^{たくま}しい往時の姿を残しつつ、日本の近代化に向けて躍動した軍港都市は、訪れる人々を惹きつけてやまないでしょう。



呉市本庄水源地堰堤水道施設 1920 年



横須賀明細式覧図
(鎮守府開庁後の明治18年版、個人蔵)



舞鶴市立赤れんが博物館
(旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫) 1903 年

ストーリーの構成文化財一覧表（横須賀市）

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1-1	米海軍横須賀基地 C 1 建物 (旧横須賀鎮守府庁舎)	未指定	第一海軍区を管轄した鎮守府の庁舎。関東大震災で被災したれんが造の庁舎に代わり大正 15 年に建設された鉄骨造の 2 代目庁舎。海軍の技術力を証明する日本最初の耐震建築でもある。	神奈川県 横須賀市
1-2	米海軍横須賀基地 C 2 建物 (旧横須賀鎮守府会議所・ 横須賀海軍艦船部庁舎)	未指定	鎮守府の関連施設で、昭和 9 年建設の鉄骨造 2 階建て。震災後の建築としては装飾性に富み、海軍の威信を感じる。正面入口に「横須賀鎮守府会議所」と「横須賀海軍艦船部」の表札が今も残る。	神奈川県 横須賀市
1-3	米海軍横須賀基地 B 39 建物 (旧横須賀海軍工 廠庁舎)	未指定	海軍工廠の入口に所在した庁舎。この建物もれんが造に代わる 2 代目で、震災復興は 4 市の中でも横須賀市の特徴である。海軍の技術力を示す日本最初期の耐震建築（昭和 2 年建設）。	神奈川県 横須賀市
1-4	海上自衛隊横須賀地方総監 部田戸台分庁舎 (旧横須賀鎮守府司令長官 官舎)	未指定	歴代の鎮守府司令長官の官舎。 東京湾を一望する丘の上に建つ。大正 2 年、桜井小太郎の設計で建設し、洋館と和館からなる当時の建築デザインの水準を示す建物。	神奈川県 横須賀市
1-5	逸見波止場衛門	未指定	軍港の歴史と面影を伝える旧横須賀軍港逸見門の衛兵詰所。明治末から大正初期に建設された 2 棟の建物には「逸見上陸場」、「軍港逸見門」の表示板が残る。	神奈川県 横須賀市
1-6	東京湾要塞跡 猿島砲台跡 千代ヶ崎砲台跡	国史跡	首都及び軍港を守る東京湾要塞 (20 の砲台・ <small>ほうるい</small> 堡壘・ <small>かいほう</small> 海堡) のうちの 2 砲台。着工年が明治 14 年と明治 25 年で、11 年の開きがある両砲台では、切り石やれんがの積み方、コンクリート使用の有無など、建築技術の推移がわかる。	神奈川県 横須賀市

1-7	<p>観音崎・走水地区の砲台群</p> <p>観音崎砲台跡</p> <p>三軒家砲台跡</p> <p>走水低砲台跡</p>	未指定	<p>首都及び軍港を守る東京湾要塞のうち、東京湾口に位置する。観音崎砲台は、明治 13 年に起工した西洋の築城技術による日本最初の砲台。時代の異なる砲台が東京湾防衛の歴史を解き明かす。</p>	神奈川県横須賀市
1-8	<p>東京湾第三海堡構造物</p> <p>兵舎・観測所・探照灯</p> <p>砲側庫</p>	市有形	<p>首都及び軍港を守る 3 基の海堡（人工島に火砲を設置した海上砲台）の一つ。関東大震災で水没した構造物を引き上げ市内 2 カ所で展示。鉄筋コンクリートの採用など当時の建築技術の高さを示す。</p>	神奈川県横須賀市
1-9	<p>「ヨコスカ製鉄所」「ヨコスカ造船所」刻印れんが</p>	未指定	<p>横須賀製鉄所創設にあたり所内で生産された国産最古級の赤れんが。フランスの規格による建築用れんがで、軍港界限には木骨れんが造の造船関連施設が建ち並んでいた。</p>	神奈川県横須賀市
1-10	<p>スチームハンマー（旧横須賀製鉄所設置）1865 年オランダ製</p> <p>0.5 トン片持型</p> <p>3 トン門型</p>	国重文	<p>1865 年の横須賀製鉄所創設と共にオランダから輸入した艦艇の建造・修理のための鍛造機械。以後の継続的な近代造船の第一歩を記す遺産で、3 トン門型は平成 8 年まで約 130 年間稼働した。</p>	神奈川県横須賀市
1-11	<p>米海軍横須賀基地</p> <p>ドライドック 1～6 号</p> <p>（旧横須賀製鉄所・造船所・海軍工廠第一～第六号船渠）</p>	未指定	<p>軍港の景観を特徴付ける艦艇修理用のドライドック（船渠）。石造ドック（1～3 号）からコンクリート造ドック（4～6 号）へと技術の推移やドックの大型化＝艦艇の巨艦化がわかる。</p>	神奈川県横須賀市
1-12	<p>近代造船所建築図面資料</p> <p>230 点</p>	市有形	<p>海軍の技術力に関する資料で、西洋の造船技術を日本人がどのように吸収し、表現したかを物語る。横須賀造船所の技手が所蔵していたもので、呉港、佐世保港、などの資料を含む。</p>	神奈川県横須賀市
1-13	<p>走水水源地</p> <p>煉瓦造貯水池</p> <p>鉄筋コンクリート造浄水池</p>	国登録	<p>軍港水道走水系統は、明治 9 年、横須賀造船所まで 7 km に土管を敷設したことに始まる。半原系統の整備に伴い、市民への給水に転換。水源地としては珍しく海を臨む低地にある。</p>	神奈川県横須賀市

1-14	^{へみ} 逸見浄水場 ^{かんそく} 緩速ろ過池調整室 4 棟 配水池入口 2 棟、 ヴェンチュリーメーター室 1 棟	国登録	相模川上流（神奈川県愛川町 ^{はんばら} 半原）を水源とする軍港水道半原系統の横須賀市側浄水池。水の安定供給を目的に明治 45 年に着工。軍港を見下ろす丘の上にあり、鉄筋コンクリート造の配水池入口は白亜の塔として往時の姿を伝える。	神奈川県 横須賀市
1-15	^{しつかま} 七釜トンネル	未指定	明治 22 年開通の横須賀線のトンネル。鉄道敷設当初のトンネル（中央）と複線化による大正期（右）、海軍施設への引き込み線用の昭和期（コンクリート造、左）の 3 本が並ぶ。全国一トンネルの多いまち横須賀を代表するトンネル景観。	神奈川県 横須賀市
1-16	横須賀港周辺の絵図	未指定	軍港とまちの発展を伝える絵図で、明治 12 年から明治 39 年までに刊行された当時の観光マップ。「横須賀港一覽 ^{えいざ} 繪圖」「横須賀明細式覽図 ^{いちらんず} 」など現在 9 版が確認されている。	神奈川県 横須賀市
1-17	記念艦三笠（海上自衛隊横須賀地方総監部 旧三笠保存所）	未指定	明治 35 年にイギリスで竣工した旧戦艦。日露戦争終了直後の明治 38 年 9 月に佐世保港内で爆沈するが難工事の末、浮揚・修理され、明治 41 年 4 月に現役復帰。大正 12 年 9 月に横須賀港内で関東大震災により破損・着底するも再度引揚げられ、大正 14 年 1 月に記念艦としての保存が閣議議決された後、現在地に移動・整備された。鎮守府と海軍工廠の艦船修理技術等の歴史を伝える記念物。	神奈川県 横須賀市

ストーリーの構成文化財一覧表（呉市）

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
2-1	旧呉鎮守府司令長官官舎	国重文	港を望む小高い丘の上に建設された官舎は和洋館併設の瀟洒な建物。洋館部内装には全国的にも貴重な金唐紙が用いられている。	広島県 呉市
2-2	呉市入船山記念館休憩所 （旧東郷家住宅離れ）	国登録	東郷平八郎が呉鎮守府参謀長として呉に赴任していた際（明治 23 年から 1 年 7 か月）に居住していた家の離れ座敷。	広島県 呉市
2-3	海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）及び地区内のレンガ建物群	未指定	第一庁舎は呉鎮守府を代表するレンガ建物。総監部内にはその他にも明治から大正期にかけて建てられたレンガ建造物が数多く残っている。	広島県 呉市
2-4	呉市水道局二河水源 地取入口	国登録	明治 22 年（1889）に完成した呉鎮守府の軍港水道施設の一つ。上部に「呉鎮守府水道」と刻まれた標石を置く、我が国初期の水道施設の一つとして貴重。	広島県 呉市
2-5	本庄水源 地堰堤水道施設 堰堤、丸井戸、第一量水井、 階段	国重文	呉鎮守府水道の貯水池として整備された。花崗岩の切石が丹念に積まれた堰堤は、壮大で重厚な美しい外観を有する。平成 11 年（1999）に稼働する水道施設としては初めて国重要文化財に指定。	広島県 呉市
2-6	呉市水道局宮原浄水場 低区配水池	国登録	宮原浄水場は、呉鎮守府に配水するための水道施設として開庁の翌年に築造。レンガ造りの配水池としては我が国最古のものとされている。	広島県 呉市
2-7	アレイからすこじま （旧呉海軍工廠本部前護岸 及び関連施設）	未指定	整然と積まれた石積護岸、巧みに加工された石階段、魚形水雷発射試験場跡、クレーンなどの旧呉海軍工廠の遺構が保存され、公園として整備されている。	広島県 呉市
2-8	旧呉海軍工廠塔時計 （呉市入船山記念館内）	市有形	大正 10 年（1921）年に造機設計部庁舎屋上に設置され、終戦まで海軍工廠とともに時を刻んできた。現在動いている電動親子式衝動時計としては国産最初のもの。	広島県 呉市

2-9	昭和町レンガ倉庫群 (株)ダイクレ呉第二工場 亜鉛メッキ工場 (旧呉海軍 工廠砲煩部精密兵器工場) 呉貿倉庫運輸 (株) 8 号倉 庫ほか (旧呉海軍工廠造兵 部大砲庫など)	未指定	明治期に建設されたレンガ造の倉庫群 で、現在は民間企業で使用されている。 旧呉海軍工廠砲煩部精密兵器工場は 3 連の棟からなる約 7, 200 m ² の大規模な建 築。4 棟からなる造兵部の倉庫群は、製 品置場、大砲庫、魚形水雷調整室、弾丸 庫等を使用されていた。	広島県 呉市
2-10	呉市入船山記念館旧高鳥砲 台火薬庫	国登録	軍港防御のため高鳥山に築かれた砲台 にあった火薬庫。花崗岩で造られた総石 造りの火薬庫は全国的にも珍しく、現在 は入船山記念館に移築されている。	広島県 呉市
2-11	呉湾 (広湾) を守る砲台群 高鳥砲台跡、大空山砲台跡	未指定	軍港防御のために築かれた要塞跡。後に 海軍の防空砲台として高角砲等が設置 された。花崗岩で造られた明治中期の要 塞砲として非常に珍しい形式を持つ。	広島県呉 市
2-12	呉軍港全図 (呉市入船山記念館所蔵)	未指定	呉鎮守府建設計画は、呉における調査資 料をもとに明治 19 年頃に東京において 作成したと推定される。海軍による計画 的な軍港都市形成の意図を裏付ける貴 重な資料である。	広島県 呉市
2-13	ジャパン マリンユナイテッ ド (株) 呉事業所大屋根 (旧呉海軍工廠造船部造船 船渠大屋根)	未指定	艦艇の大型化に伴い築造された新造艦 専用の造船船渠。船渠は埋め立てられた が、戦艦大和建造時の上屋 (大屋根) が 現存し、歴史の見える丘から眺めること ができる。	広島県 呉市
2-14	呉市海事歴史科学館 (大和ミ ュージアム) の所蔵資料 戦艦「大和」設計図面、10 分の 1 戦艦大和、巡洋戦艦 「金剛」搭載のヤーロー式ボ イラー、戦艦「大和」型 150 セ ンチ探照灯反射鏡、零式艦上 戦闘機六二型など	未指定	近代日本の造船技術の進化と技術力の 高さを物語る貴重な資料。大和ミュージ アムに所蔵されており、鎮守府の置かれ たまちの成り立ちと歴史を知ることがで 往時のまちの様子を感じることができる。 (掲載資料は近代化産業遺産群に認定)	広島県 呉市

2-15	旧呉海軍工廠海軍 ^{ぎて} 技手養成所跡と周辺の海軍遺構	未指定	海軍が技手と呼ばれる優秀な技術者を養成した養成所跡に記念碑が建立されている。周辺には職工教習所跡地記念碑や防空監視所、工廠神社、地下壕入口などの遺構が残る。	広島県 呉市
2-16	長迫公園 (旧海軍墓地)	未指定	鎮守府開庁からほどなく海軍等の戦没者の埋葬地として開設された。墓碑や「戦艦大和戦死者の碑」等の合祀碑等が建立され、戦没者の追悼と恒久平和を祈念した追悼式が毎年行われている。	広島県 呉市
2-17	歴史の見える丘	未指定	呉の歴史的建造物が一望できる場所。眼下には旧呉鎮守府庁舎や造船関係の工場群、戦艦大和が建造された船渠（ドック）の上屋を眺めることができ、軍港特有の景観を体感できる。	広島県 呉市
2-18	海上保安大学校煉瓦ホール (旧呉海軍工廠 ^{ほうこうぶ} 砲煩部 ^{かこうじょう} 火工場機械室)	市有形	大正 3 年 (1914) に建造されたれんが建物。建物の主要構造部、外観部分など建設当時の意匠をよく残し、「海軍第一の製造所」として発展・躍動した呉の歴史を伝える建造物。	広島県 呉市

ストーリーの構成文化財一覧表 (佐世保市)

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
3-1	旧佐世保無線電信所施設 (針尾送信所)	国重文	大正 11 年に建設された長波通信施設。佐世保で熟成された鉄筋コンクリート技術の到達点というべき建造物。	長崎県 佐世保市
3-2	佐世保市民文化ホール (旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)	国登録	大正 12 年に第一次大戦の凱旋記念館として建てられた。旧海軍の催事が行われたほか、民間の利用も可能だった。戦後も長く市民に親しまれてきた。	長崎県 佐世保市
3-3	西九州倉庫(株)前畑 1 号 倉庫 (旧第五水雷庫)	未指定	鉄筋コンクリート技術の発達によって建築が可能となった超巨大建築物。一般人が間近で見学できる数少ないもののひとつ。佐世保最大の倉庫である。	長崎県 佐世保市
3-4	岡本水源地	未指定	日清戦争による水不足を受けて建設された。この完成により、市民も手桶単位ではあるが、浄水を利用できるようになった。	長崎県 佐世保市
3-5	山ノ田水源地	未指定	鎮守府と佐世保市の水不足の解消と衛生環境の改善のため明治 41 年に建設された。この完成により、市民も水道管による安全な給水を受けることができるようになった。全国で 10 番目の水道管給水の実現であった。	長崎県 佐世保市
3-6	立神係船地 (旧修理艦船繫留場)	未指定	コンクリート技術の発達により常に海水に触れる場所に大々的にコンクリートを使用した最初の例。佐世保港の地形を大きく変える海軍最大規模の土木工事だった。	長崎県 佐世保市
3-7	佐世保重工業(株) 250 トンクレーン	国登録	イギリスから輸入されたジャイアント・カンチレバー・クレーン。世界最大級の揚重能力を誇った。海軍工廠の主力クレーンとして活躍した。佐世保のランドマークの一つ。	長崎県 佐世保市
3-8	佐世保重工業(株) 第 5、第 6 ドック	未指定	第 5 ドック (旧第一船渠) における火山灰を混入した対海水コンクリートの開発と、第 6 ドック (旧第三船渠) における鉄筋コンクリートの建物への応用など、コンクリート技術の熟成期に重要な役割を果たした。	長崎県 佐世保市

3-9	赤崎貯油所旧地下重油槽	未指定	耐海水コンクリートの開発に携わった真島健三郎はそれを建築物に応用し、次いで岸壁そして重油タンクにもこれを適用し、水よりも浸透性の高い重油を貯蔵できることを示し、コンクリートの将来性をさらに高めた。	長崎県 佐世保市
3-10	庵崎貯油所地下重油槽	未指定	艦船の燃料は重油が主体となり、各地に地下式の重油タンクが建設されていたが、これは佐世保においての成功が他地域に波及したものである。その佐世保ではさらに大規模なタンクが建造され、7万トンという世界最大の重油タンクが建造された。	長崎県 佐世保市
3-11	佐世保要塞及び関連施設	未指定	軍港防備のため市内5ヶ所に陸軍砲台が建設された。市街地を取り巻くように建設され、俵ヶ浦町の丸出山砲台のように観測所が残る例もあり、現在ではトレイル事業に活用されている。	長崎県 佐世保市
3-12	平瀬煉瓦倉庫群	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。平瀬地区には食糧品や衣類が保管された。米軍基地内にあり通常は間近では見学できない。佐世保を象徴する景観の一つである。	長崎県 佐世保市
3-13	立神煉瓦倉庫群	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。立神地区には兵器類が保管された。煉瓦造から鉄骨煉瓦造へと移行する技術の発展過程を見ることができる。	長崎県 佐世保市
3-14	前畑火薬庫	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。前畑地区には火薬類が保管された。終戦直前まで拡張が繰り返され、時代ごとに特徴的な建物残り、まさに建築博物館といえる。	長崎県 佐世保市
3-15	南風崎トンネル	未指定	トンネル正面の石造柱は意匠上設置されたもの。この時期の建造物は近代化の目に見える象徴として、実用性だけでなく意匠面も重視されている。	長崎県 佐世保市

3-16	清水の瀬橋梁	未指定	鉄道橋としては一般的な形式だが、煉瓦造橋脚の石材がアクセントになっている。橋脚の上の鈑桁(プレートガーダ)の更新を繰り返しながら今も現役で稼働している。	長崎県 佐世保市
3-17	佐世保鎮守府水道施設群	未指定	小規模ながら全国3番目の近代水道施設として完成し、時局の要求に合わせて拡張が繰り返された。水道施設の発展過程を見ることができる施設群といえる。	長崎県 佐世保市
3-18	佐世保市水道局水道施設群	未指定	海軍からの浄水分与でスタートした佐世保市の水道事業は、急激な人口増加に対応するために拡張を繰り返した。	長崎県 佐世保市
3-19	干尽倉庫群	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。干尽地区には魚雷や爆弾本体が保管された。規模の大きな倉庫が多く、現在も港湾荷役を担っている。	長崎県 佐世保市
3-20	九州旅客鉄道(株)鉄道施設群	未指定	佐世保への陸上輸送路を確保する鉄道が整備され、明治31年に佐世保駅が開業した。当時の鉄道は近代化の目に見える象徴として意匠面にも配慮した造りとなっている。	長崎県 佐世保市
3-21	松浦鉄道(株)鉄道施設群	未指定	軍港佐世保と北部の炭田、商港伊万里への陸上輸送路を確保する目的、また佐世保港の軍商住み分けのために建設が推進された。佐世保の急激な市街化のため市街部は九州初の高架鉄道となった	長崎県 佐世保市
3-22	海軍防備隊、警備隊砲台群	未指定	軍港防衛のために建設された砲台群。航空機の登場やその著しい発展など技術の進展に合わせてその装備も移り変わっていった。	長崎県 佐世保市
3-23	佐世保重工業(株)佐世保造船所(旧佐世保海軍工廠)施設群	未指定	数々の最新技術、設備が導入され、艦船の建造や改装を担った工場施設及び設備群。その設備と技術力は戦後も遺憾なく発揮され、地域の発展に貢献した。海沿いに林立するクレーン群は佐世保を代表する景観の一つ。	長崎県 佐世保市

3-24	佐世保鎮守府庁、海兵団 関連施設群	未指定	佐世保鎮守府の中樞を担った施設群。現在も海上自衛隊の中心施設となっている。鎮守府時代の門柱や通信隊庁舎、兵舎や火薬庫、巨大な地下壕、並木道が残る。	長崎県 佐世保市
3-25	佐世保鎮守府関連記念碑 群	未指定	佐世保鎮守府の建設から終戦までの間、鎮守府のまちならではの記念碑や慰霊碑が建立された。これらの石碑群もまた、鎮守府が歩んだ歴史を証明するものである。	長崎県 佐世保市
3-26	東山公園（旧海軍墓地）	未指定	鎮守府開庁からほどなく、「海軍埋葬地」として整備された。終戦までに亡くなった 17 万 6 千柱あまりの戦没者が祀られ、毎年市主催の慰霊祭が行われている。また海上自衛隊隊員による奉仕清掃等も頻繁に行われている。	長崎県 佐世保市
3-27	吉村長策関連史料群	未指定	我が国水道の父とも称される海軍技師吉村長策に関する史料群。岡本水源地の設計図面や工事写真、山ノ田水源地の計画図や工事写真、舞鶴鎮守府水道の図面の一部等が含まれている。	長崎県 佐世保市

ストーリーの構成文化財一覧表（舞鶴市）

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
4-1	舞鶴赤れんがパーク等 (舞鶴旧鎮守府倉庫施設 魚形水雷庫、予備艦兵器庫、 弾丸庫並小銃庫、雑器庫並 預兵器庫、第三水雷庫、 揮発油庫)	国重文 及び 未指定	明治35年(1902)から大正7年(1917)にかけて、海岸近くに建てられた2階建てれんが造倉庫群である。特に赤れんが博物館に活用している旧魚形水雷庫は、当時の最先端技術を取り入れた国内最古級の鉄骨れんが造建造物（鉄骨は米国カーネギー社製）である。また、第三水雷庫は大正7年建築の舞鶴鎮守府最大の倉庫であり、蒸気機関車が直接貨物車両を引いて入ることができた。	京都府 舞鶴市
4-2	旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫 (舞鶴旧鎮守府倉庫施設需 品庫)	国重文	明治35年(1902)に需品庫として建てられた3連棟の2階建てれんが造倉庫である。倉庫の前には長さ約150mの石とれんがを敷いた物品運搬通路がある。大正期に電機庫や水雷庫に用途変更され、三棟を貫いて鉄道の引込線が敷設された。	京都府 舞鶴市
4-3	海上自衛隊舞鶴補給所 No.2、No.3、No.4、No.17 倉庫 (旧舞鶴鎮守府衣糧庫 被服庫、第三被服庫、軍需 部第一需品庫)	未指定	舞鶴鎮守府の開庁に合わせ、明治34年(1901年)に建築された2棟の被服庫は、舞鶴鎮守府最古のれんが倉庫であり、隣の第三被服庫は大正10年(1921)に建築された最新のれんが倉庫である。	京都府 舞鶴市
4-4	海上自衛隊舞鶴地方総監部 会議所 (旧舞鶴鎮守府司令長官官 舎)	未指定	舞鶴鎮守府歴代司令長官の官舎として明治34年に建築された。一部洋館造りの木造平屋建て和洋折衷様式である。初代司令長官の東郷平八郎海軍中將も2年間過ごした。現在、月1回公開されている。	京都府 舞鶴市
4-5	ジャパンマリンユナイテッド(株)舞鶴事業所施設 (旧舞鶴鎮守府海軍工廠) 5-a 舞鶴館(本館) 5-b 第二倉庫(造兵機械場) 5-c 機械工場(鍛造工場) 5-d 複写室(第五材料倉庫) 5-e、f 第三陸機工場	未指定	明治30年(1897)から造船廠用地の開削工事がはじまり、同36年には主要なれんが造の工場建物などが完成して海軍工廠となった。さらに中核をなす船台、船渠も建設され、第一船渠が明治37年(1904)に、第二船渠が大正3年(1914)に完成した。第二船渠は最新技術のコンクリート造とし、	京都府 舞鶴市

	(第一、第二製缶場) 5-g 第 4 修理工場(現図場) 5-h 第二機械工場(外業工場) 5-i 第 1 機械工場 (機械工場及び組立工場) 5-j 第 2 電気工場(発電場) 5-k 2 号ドック(第一船渠) 5-l 3 号ドック(第二船渠)		一部石材が用いられ、当時の四海軍工廠のうちで最大級だった。 舞鶴工廠は、主に駆逐艦や水雷艇などの小型艦艇建造と水中兵器製造を特色とする工廠として発達した。大正 9 年に世界最高速 40.7 ノットを記録した駆逐艦島風はここで建造された。	
4-6	海上自衛隊舞鶴警備隊 正門 (旧舞鶴鎮守府西門)	未指定	舞鶴鎮守府を中心に東側と西側に市街地が造成されたが、境界にはそれぞれ東門と西門が設けられ、一般市民の立ち入りが制限された。西門は現在、海上自衛隊舞鶴警備隊の正門として移築保存されている。	京都府 舞鶴市
4-7a	海上自衛隊舞鶴地方総監部 大講堂及び海軍記念館収蔵資料 (旧海軍機関学校大講堂及び鎮守府関係資料)	未指定	旧海軍機関学校大講堂は昭和 8 年に建築されたもので、現在の一部を初代司令長官・東郷平八郎をはじめ、旧鎮守府や海軍に関する貴重な資料を展示する海軍記念館として公開されている。	京都府 舞鶴市
4-7 -b、 -c	海上自衛隊舞鶴地方総監部 第一庁舎及び第四術科学校 校舎 (旧海軍機関学校庁舎及び生徒館)	未指定	旧海軍機関学校の校舎群は、海軍建築局長真島健三郎が大正 10 年のワシントン軍縮会議によって建造できなくなった艦船用鉄骨材を利用し、現代の超高層建築の耐震設計の基礎である動的解析理論に基づき、世界で初めて設計建築した建物である。	京都府 舞鶴市
4-8	市道北吸・桃山線 北吸トンネル (旧軍港引込線北吸隧道)	国登録	明治 37 年(1904)に官営舞鶴線の敷設と併せ、海軍施設への物資等運搬のために建設したれんが造の隧道。廃線となった後、現在は自転車道として親しまれている。	京都府 舞鶴市
4-9	旧北吸浄水場配水池施設 (舞鶴旧鎮守府水道施設) 9-a 旧北吸浄水場 第一配水池 9-b 同 第二配水池	国重文	配水地は明治 34 年(1901)の建設で容量は 2,400 m ³ 。深さ 5.6m の石張りコンクリート造りで 5 列の煉瓦造導水壁が交互に並ぶ様子は大迫力がある。大正 15 年建築の上屋は鉄骨れんが造で、入口上部にロマネスク風デザインの煉瓦アーチを施す。 約 6 km 離れた桂貯水池から北吸浄水場に自然勾配で送られてきた水は、ろ過されて 2 基の配水地に貯水されたのち、艦艇や各施設に送られた。	京都府 舞鶴市

4-10 a	舞鶴市水道施設 桂 貯水池 (舞鶴旧鎮守府水道施設 岸 谷川下流取水堰堤)	国重文	舞鶴鎮守府開庁に向け、艦艇用の水を大量に確保するために明治 33 年 (1900) に完成した。堰堤は当時の最新技術であった石張コンクリート造りで、高さ 12.4m、天端幅 2.2m、堰堤延長 51.5m、貯水量 8,000 m ³ の貯水池である。水門銘板には舞鶴出身の海軍次官伊藤雋吉の揮毫による「清徳靈長」の文字が刻まれている。	京都府 舞鶴市
4-10 b	舞鶴市水道施設岸谷貯水池 (舞鶴旧鎮守府水道施設 岸 谷川下流取水堰堤)	国重文	大正 10 年 (1921)、第 2 期拡張工事によって岸谷川下流に岸谷川を横断する延長 143 m、高さ 30m、容量 21 万 m ³ の重力式アースダム岸谷川下流貯水池堰堤や放水路等が築造された。	京都府 舞鶴市
4-11	艦船名を名付けた市街地 「新舞鶴市街図」	未指定	大正 6 年には「新舞鶴市街図」発行され、版が重ねられた。地図からは当時のまちの活気や発展の様子を伺うことができる。	京都府 舞鶴市
4-12	艦船名を名付けた市街地の 景観	未指定	舞鶴市の市街地は、鎮守府開庁の翌明治 35 年に完成。碁盤目状の街路には戦艦、駆逐艦など 33 隻の名が付けられ現在に至る。艦船名の街路とその両側に並ぶ建物は市民の誇りである。	京都府 舞鶴市
4-13	鎮守府周辺の石積護岸	未指定	新造成された鎮守府周辺の海岸や河川には、埋立て土砂の崩壊防止や艦艇、船舶の接岸のため総延長 10 数kmにわたり石積護岸が築かれた。石積みは、年代、場所、用途により様々な表情を見せている。	京都府 舞鶴市
4-14	JR 舞鶴線隧道・橋梁施設 (官 設舞鶴線隧道・橋梁施設)	未指定	明治 35 年、日露両国間に緊張が高まるなか、政府は福知山～新舞鶴を結ぶ約 40km の区間に官設鉄道の敷設を決定。突貫工事によって 2 年後に完成し、運営は民間の阪鶴鉄道に委託された。区間にはれんが造の隧道や橋梁が今も現役で使用されている。	京都府 舞鶴市

4-15 a	J R 小浜線施設 松尾寺駅 (旧国鉄小浜線松尾寺停車場)	未指定	鎮守府のまちの発展に伴い、北陸方面や山陰方面と結ぶ鉄道敷設の機運が高まり、国鉄小浜線が大正 11 年に完成した。 また、小浜線の松尾寺駅は、当時の姿を残す唯一の木造平屋建て駅舎として貴重である。隧道には新しいコンクリート造の技術が導入されている。	京都府 舞鶴市
4-16 a	京都丹後鉄道宮舞線隧道・ 橋梁施設 由良川橋梁 (旧国鉄峰山線由良川橋梁)	未指定	山陰方面と結ぶ鉄道敷設の機運が高まり、国鉄峰山線が大正 13 年に完成した。舞鶴線、小浜線と合わせて東西南北の鉄道が完成し、舞鶴は近畿北部一の都市となった。 なかでも、京都北部最大の河川である由良川河口部に架かる由良川橋梁は長さ約 550 m、水面からわずか 3m の高さであり、壮観である。峰山線の橋梁の橋脚や隧道はコンクリート・石造である。	京都府 舞鶴市
4-17	旧岡田橋	府有形	旧岡田橋は、明治 21 年(1888)に京都宮津間車道開さく工事によって由良川支流の岡田川に架けられた石造単アーチ橋である。鎮守府の建設に必要な物資の陸路運搬にあたって大きな役割を果たした。	京都府 舞鶴市
4-18	旧舞鶴要塞及び関連施設	未指定	日露戦争を危惧し海岸防備を強化した海軍の軍港施設を守るため、陸軍築城部は明治 30 年～35 年にかけて舞鶴湾周辺 6 か所の山頂に砲台を築いた。現在の日星高等学校敷地に砲兵大隊が、西隣に要塞司令部が置かれていた。現在の高校正門は当時のもので往時を偲ばせている。	京都府 舞鶴市
4-19	神崎煉瓦ホフマン式輪窯 ^{れんが} 及び湊十二社手洗所 ^{りんよう} (旧京都竹村丹後製所窯所煉瓦窯)	国登録	明治 30 年 (1897)、京都の山田宗三郎が由良川河口の西神崎に京都竹村丹後製窯所を興し、登り窯で舞鶴軍港建設に必要なれんがを製造した。大正末期には窯を稼働効率の高いホフマン式輪窯(長径 45m、短径 9 m)に改造した。現在、全国で 4 基のホフマン窯が残っているが、大小 12 本もの煙突を有する窯は他に例がなく貴重である。隣接する湊十二社の境内に明治 36 年に奉納された美しいれんが造手洗所がある。	京都府 舞鶴市

4-20	旧海軍北吸官舎群 <small>きたすい</small>	未指定	北吸官舎は、鎮守府に所属する海軍将校の官舎として明治 33 年から 35 年(1902)にかけて甲号(153 m ²)、乙(137 m ²)、丙(113 m ²)、丁号(73 m ²)の 4 種類、計 65 棟が建てられた。旧市長公舎は 11 棟あった乙号官舎のなかで現存する唯一の建物である。基礎や土間などにれんがやコンクリートが使用されており、海軍の先進性がうかがえる。	京都府 舞鶴市
4-21	旧飯野寅吉邸	未指定	飯野寅吉は、福岡県出身で鎮守府開庁に伴い飯野海運などを設立し、近代舞鶴の産業・経済の発展に寄与した人物である。邸宅は大正年間に建築されたもので、舞鶴を代表する近代和風建築である。	京都府 舞鶴市
4-22	「海軍割烹術参考書」及び <small>かつぽうじゆつ</small> 「海軍厨業管理教科書」	未指定	「海軍割烹術参考書」は、明治 41 年(1908)、舞鶴海兵団がそれまでの教材等を収集して編集・発行した和・洋食のテキストであり、「海軍厨業管理教科書」には、甘煮(肉じゃが)の調理方法が掲載されているなど、海軍が洋食文化の伝播に役割を果たしていたことがうかがわれる。	京都府 舞鶴市
4-23	海軍防備隊、警備隊砲台群	未指定	軍港防衛のために建設された砲台群。	京都府 舞鶴市
4-24	共楽公園(海軍墓地)	未指定	鎮守府開庁からほどなく海軍等の戦没者の埋葬地として整備された。	京都府 舞鶴市
4-25	舞鶴鎮守府関連記念碑群	未指定	舞鶴鎮守府の建設から終戦までの間に鎮守府のまちならではの記念碑や慰霊碑が建立された。	京都府 舞鶴市
4-26	舞鶴鎮守府周辺寺社群	未指定	舞鶴鎮守府の開設に先立って寺院を利用した「臨時海軍建築部支所」及び「舞鶴水雷団」の設置や、鎮守府開設を契機に神社の合祀や鎮守山と号する寺院が建立された。	京都府 舞鶴市

ストーリーの構成文化財一覧表（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）

番号	文化財の名称	指定等の 状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の 所在地
5-1	鎮守府のラッパ	未指定	朝夕に、艦船上での国旗や自衛艦旗の掲揚と降下に合わせて港に響き渡るラッパ「君が代」。	神奈川県 横須賀市 広島県呉市 長崎県佐 世保市 京都府 舞鶴市

構成文化財の写真一覧（横須賀市）

1-1 米海軍横須賀基地C 1 建物
(旧横須賀鎮守府庁舎)



1-3 米海軍横須賀基地B39 建物
(旧横須賀海軍工廠庁舎)



1-2 米海軍横須賀基地C 2 建物
(旧横須賀鎮守府会議所・横須賀海軍艦船部庁舎)



1-4 海上自衛隊田戸台分庁舎
(旧横須賀鎮守府司令長官官舎)



1-5 逸見波止場衛門



1-6a ^{とうきょうわんようさいあと} 東京湾要塞跡 ^{さるしまほうだいあと} 猿島砲台跡



1-7b 観音崎・走水地区の砲台群
— ^{はしりみずでいほうだいあと} 走水低砲台跡 —



1-6b ^{とうきょうわんようさいあと} 東京湾要塞跡 ^{ちよがさきほうだいあと} 千代ヶ崎砲台跡



1-8 ^{とうきょうわんだいさんかいほうこうぞうぶつ} 東京湾第三海堡構造物 (兵舎)



1-7a 観音崎・走水地区の砲台群
— 観音崎砲台第一砲台跡 —



1-9 「ヨコスカ^{せいてつじょ}製鉄所」「ヨコスカ^{ぞうせんじょ}造船所」
^{こくいん} 刻印れんが

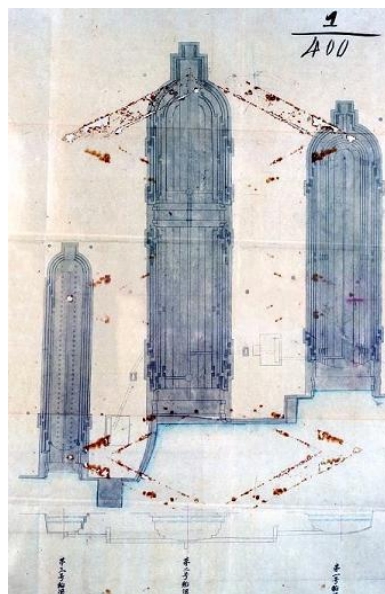


(上:ヨコスカ製鉄所、下:ヨコスカ造船所)

1-10 スチームハンマー 3 トン門型
(ヴェルニー記念館蔵)



1-12 きんだいぞうせんじよけんちくずめんしりょう
近代造船所建築図面資料「第一号～第三
号船渠配置図」(市博物館蔵)



1-11 よこすかきち
横須賀基地 1 号～3 号ドック
(旧横須賀造船所第一号～第三号船渠)



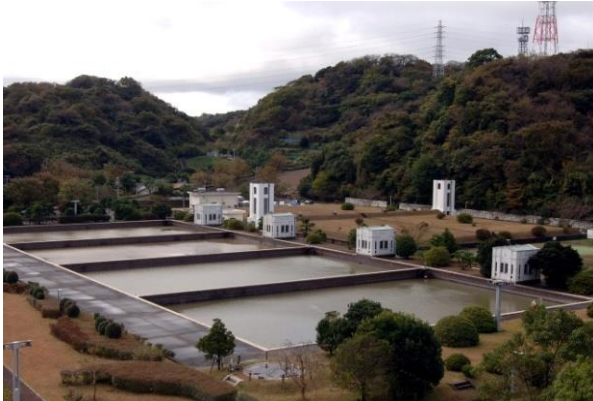
1-13a はしりみず 煉瓦造貯水池
走水水源地



1-13b はしりみず
走水水源地 鉄筋コンクリート造
浄水池



1-14a ^{へみ}逸見浄水場



1-15 ^{しつかま}七釜トンネル



1-14b ^{へみ}逸見浄水場 配水池入口



1-16 横須賀港周辺の絵図（横須賀港一覽繪圖
明治 12 年官許 銅版画、市博物館蔵）



1-17 ^{きねんかんみかさ}記念艦三笠（海上自衛隊横須賀地方総監
部 ^{きゅうみかさぼんしよ}旧三笠保存所）



構成文化財の写真一覧(呉市)

2-1 旧呉鎮守府司令長官官舎



2-4 呉市水道局二河水源地取入口



2-2 呉市入船山記念館休憩所（旧東郷家住宅離れ）



2-5 本庄水源地堰堤水道施設
堰堤，丸井戸，第一量水井，階段



2-3 海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎（旧呉鎮守府庁舎）及び地区内のれんが建物群



2-6 呉市水道局宮原浄水場低区配水池



構成文化財の写真一覧(呉市)

2-7 アレイからすこじま
(旧海軍工廠本部前護岸及び関連施設)



2-10 呉市入船山記念館旧高鳥砲台火薬庫



2-8 旧呉海軍工廠塔時計 (呉市入船山記念館内)



2-11 呉湾（広湾）を守る砲台群
高鳥砲台跡



2-9 昭和町れんが倉庫群



2-12 呉軍港全図 (呉市入船山記念館所蔵)



構成文化財の写真一覧(呉市)

2-13 ジャパンマリンユナイテッド(株) 呉事業所大屋根 (旧呉海軍工廠造船部造船船渠大屋根)



2-16 長迫公園 (旧海軍墓地)



2-14 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)の所蔵資料 10分の1 戦艦大和



2-17 歴史の見える丘



2-15 旧呉海軍工廠海軍技手養成所跡と周辺の海軍遺構



2-18 海上保安大学校煉瓦ホール (旧呉海軍工廠砲煩部火工場機械室)



構成文化財の写真一覧(佐世保市)

3-1 旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設



3-4 岡本水源地



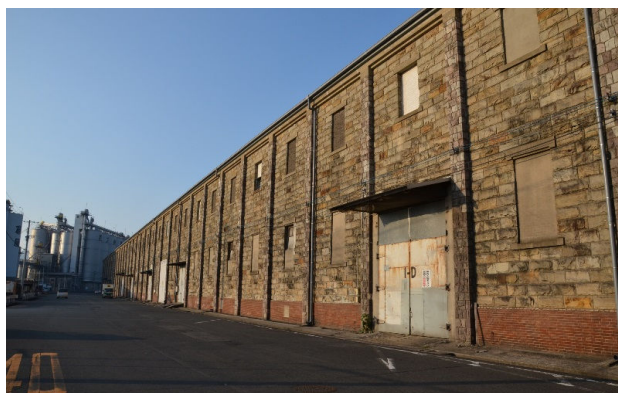
3-2 佐世保市民文化ホール
(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)



3-5 山ノ田水源地



3-3 西九州倉庫(株)前畑1号倉庫(旧第五水雷庫)



3-6 立神係船池(旧修理艦船繫留場)



構成文化財の写真一覧(佐世保市)

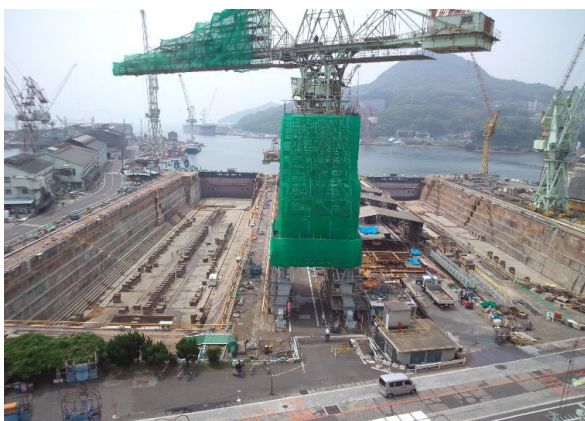
3-7 佐世保重工業(株)250トンクレーン



3-10 庵崎貯油所地下重油槽



3-8 佐世保重工業(株)第5、第6ドック



3-11 佐世保要塞及び関連施設



3-9 赤崎貯油所旧地下重油槽



3-12 平瀬煉瓦倉庫群



構成文化財の写真一覧(佐世保市)

3-13 立神煉瓦倉庫群



3-16 清水の瀬橋梁



3-14 前畑火薬庫



3-17 佐世保鎮守府水道施設群(矢岳貯水所)



3-15 南風崎トンネル



3-18 佐世保市水道局水道施設群(菰田貯水池堰堤)



構成文化財の写真一覧(佐世保市)

3-19 千尽倉庫群



3-22 海軍防備隊、警備隊砲台群(弓張岳砲台跡)



3-20 九州旅客鉄道(株)鉄道施設群(早岐駅給水塔跡)



3-23 佐世保重工業(株)佐世保造船所施設群



3-21 松浦鉄道(株)鉄道施設群(花園町橋梁)



3-24 佐世保鎮守府庁、海兵団関連施設群
(鎮守府庁表門)



構成文化財の写真一覧(佐世保市)

3-25 佐世保鎮守府関連記念碑群



3-26 東山公園(旧海軍墓地)



3-27 吉村長策関連史料群



構成文化財の写真一覧(舞鶴市)

4-1 舞鶴赤れんがパーク等

1-a、b、c、d、e (舞鶴旧鎮守府倉庫施設 5棟)



4-4 海上自衛隊舞鶴地方總監部 会議所 (旧舞鶴鎮守府司令長官官舎)



4-2 旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫

2-a、b、c (舞鶴旧鎮守府倉庫施設 需品庫 3棟)



4-5 ジャパンマリンユナイテッド(株)舞鶴事業所施設

5-a 舞鶴館 (旧舞鶴鎮守府海軍工廠 本館)



4-3 海上自衛隊舞鶴補給所 No.2、3、4、17倉庫

3-a、b、c、d (舞鶴旧鎮守府衣糧庫被服庫ほか3棟)



4-5 ジャパンマリンユナイテッド(株)舞鶴事業所施設

5-i 第一機械工場

(旧舞鶴鎮守府海軍工廠機械工場及び組立工場)



構成文化財の写真一覧(舞鶴市)

4-6 海上自衛隊舞鶴警備隊正門
(旧舞鶴鎮守府西門)



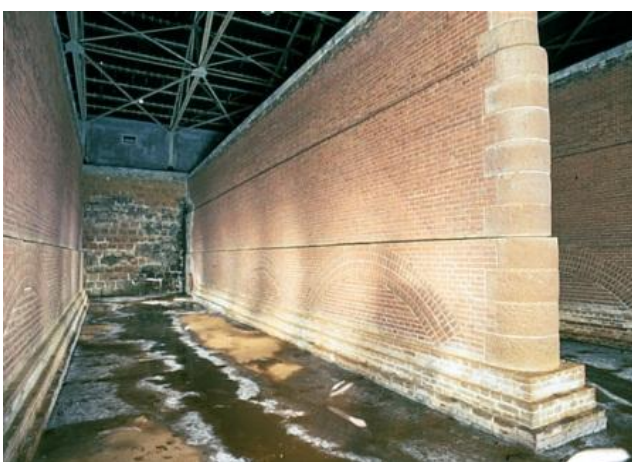
4-8 市道北吸・桃山線北吸トンネル
(旧舞鶴鎮守府軍港引込線北吸隧道)



4-7-a 海上自衛隊舞鶴地方総監部施設
大講堂・海軍記念館 (旧海軍機関学校大講堂)



4-9 旧北吸浄水場施設第一配水池
9-a (舞鶴旧鎮守府水道施設 第一配水池)



4-7-b 海上自衛隊舞鶴地方総監部 第一庁舎
(旧海軍機関学校 庁舎)



2-10 舞鶴市水道施設桂貯水池
10-a (舞鶴旧鎮守府水道施設桂取水堰堤)



構成文化財の写真一覧(舞鶴市)

4-10 舞鶴市水道施設岸谷貯水池

10-b 舞鶴旧鎮守府水道施設岸谷川下流取水堰堤



4-13 鎮守府周辺の石積護岸



4-11 艦船名を名付けた市街地

「新舞鶴市街地図」大正6年(1917)



4-14 JR舞鶴線橋梁・トンネル施設

14-a~h (旧官設舞鶴線橋梁・隧道施設)

14-c 第六伊佐津川橋梁



4-12 艦船名を名付けた市街地の景観



4-15 JR小浜線施設(国鉄小浜線施設)

15-a 松尾寺駅(松尾寺停車場)



構成文化財の写真一覧(舞鶴市)

4-16 京都丹後鉄道宮舞線施設
(旧国鉄峰山線施設)
16-a 由良川橋梁 (同)



4-16 京都丹後鉄道宮舞線施設
(旧国鉄峰山線施設)
16-d 楠祢寺山トンネル (楠祢寺山隧道)



4-17 旧岡田橋 (同)



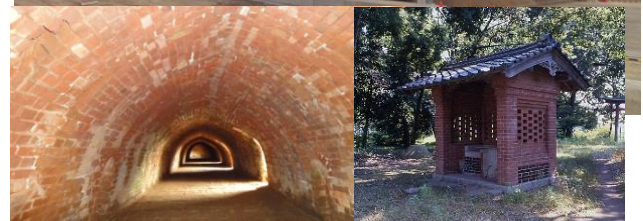
4-18 旧舞鶴要塞及び関連施設
(18-d 旧舞鶴要塞 槇山砲台跡)



4-18 旧舞鶴要塞及び関連施設
(4-18-f 旧舞鶴要塞砲兵大隊正門跡)



4-19 神崎煉瓦ホフマン式輪窯及び湊十二社手洗所
(旧京都竹村丹後製窯所煉瓦窯及び湊十二社手洗所)



構成文化財の写真一覧(舞鶴市)

4-20 旧海軍北吸官舎群



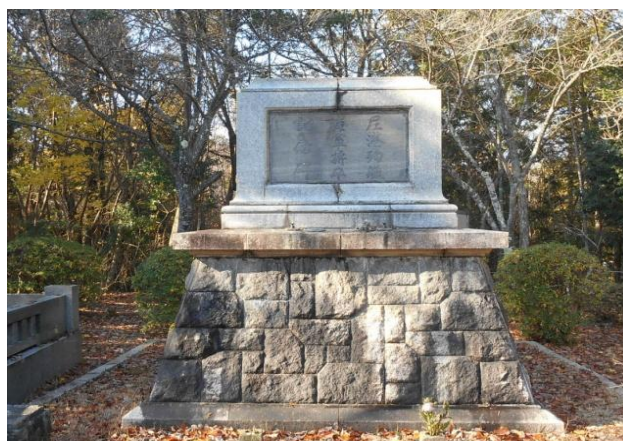
4-23 海軍防備隊、警備隊砲台群(倉梯砲台跡)



4-21 旧飯野寅吉邸



4-24 共楽公園(海軍墓地)



4-22 「海軍割烹術参考書」及び「海軍厨業管理教科書」



4-25 舞鶴鎮守府関連記念碑群
(舞鶴海軍工廠殉職者鎮魂碑)



構成文化財の写真一覧(舞鶴市)

4-26 舞鶴鎮守府周辺社寺群 (雲門寺:臨時海軍建築部支所)



構成文化財の写真一覧（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）

5 鎮守府のラッパ

